



千葉大学医学部同窓会報 第160号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 元みのほな同窓会長)

編集発行者 千葉大学医学部 みのほな同窓会報編集部 〒260-8670 千葉市中央区支鼻1-8-1 千葉大学医学部内 みのほな同窓会 電話 (043) 202-3750 FAX (043) 202-3753 e-mail : info@inohana.jp HP : http://www.inohana.jp/

### みのほな同窓会 総会開催のお知らせ

平成24年度みのほな同窓会総会を左記に より開催いたします。

- 1. 日時 平成24年6月16日(土) 午後4時より
- 2. 場所 銀座アスターお茶の水賓館 電話 03-3293-8011
- 3. 議事等
  - (1) 名誉会員の推薦について
  - (2) 年次活動について(報告事項)
  - (3) 庶務部報告
  - (4) 平成23年度決算について
  - (5) 平成24年度予算案について
  - (6) 役員の選出について
  - (7) 新みのほな同窓会館設立事業について
  - (8) その他

### 平成23年度千葉大学医学部 卒業証書伝達式・祝辞

3月23日(金) 於 記念講堂 伊藤 晴夫(昭39) みのほな同窓会会長



皆さん、ご卒業おめでとう御座います。ご家族の皆様もほんとうにお目出度う御座います。皆さんはこれから臨床、研究、公衆衛生、福祉など種々の領域に進んでいきますが、学部長、病

②常任理事(理事会を総会と兼ねる) ③評議員 (7)新みのほな同窓会館設立事業について (8)その他

懇親会 午後6時より 於：銀座アスターお茶の水賓館 水費 一万円 学生会員は無料 (当日受付にて申し受けます) 個人情報保護のために同封のシールを貼り、返信用葉書にて出欠をお知らせください(6月8日必着)。

### 新みのほな同窓会館設立事業について

3月12日に新みのほな同窓会館工期工事の入札が行われましたが、本件が小・中規模の物件であること、震災の影響で鉄骨工事などが値上がりしていることなどの理由で不調に終わりました。再入札に向けて仕様などの変更を検討しますが、コンセプトなどは変更せず、既にお知らせしている計画で進めていく予定です。再入札の具体的な日時はまだ決まっていますが、半年程当初の予定より遅れ、竣工は5月末となる予定です。一日も早く、ご寄付いただいた会員の皆様のご期待に応えられるよう今後とも設計担当者として連携しながら事業を進めていく所存です。

建物・設備等整備委員会委員長 田邊 政裕

んは将来、自分が考えている以上に地域や社会に対して強い影響力を持つことになりそうです。この力を、社会を良くするために使って頂くようお願いしたいと思います。 本日、多くのご家族の方々がご臨席されておりますが、このような恵まれた家庭環境に育つことに感謝すると共に、世の中にはこのような機会に恵まれなかった方々が沢山いることを忘れないで下さい。更に世界中には戦争や貧困のために教育どころか食べ物にも困っている人が沢山いることに思いを馳せて下さい。そして、これから医療に携わる者の心構えとして、常に弱者への配慮を基本にす

### Japan Medical Spirits

「復興の象徴」組織員会から表彰

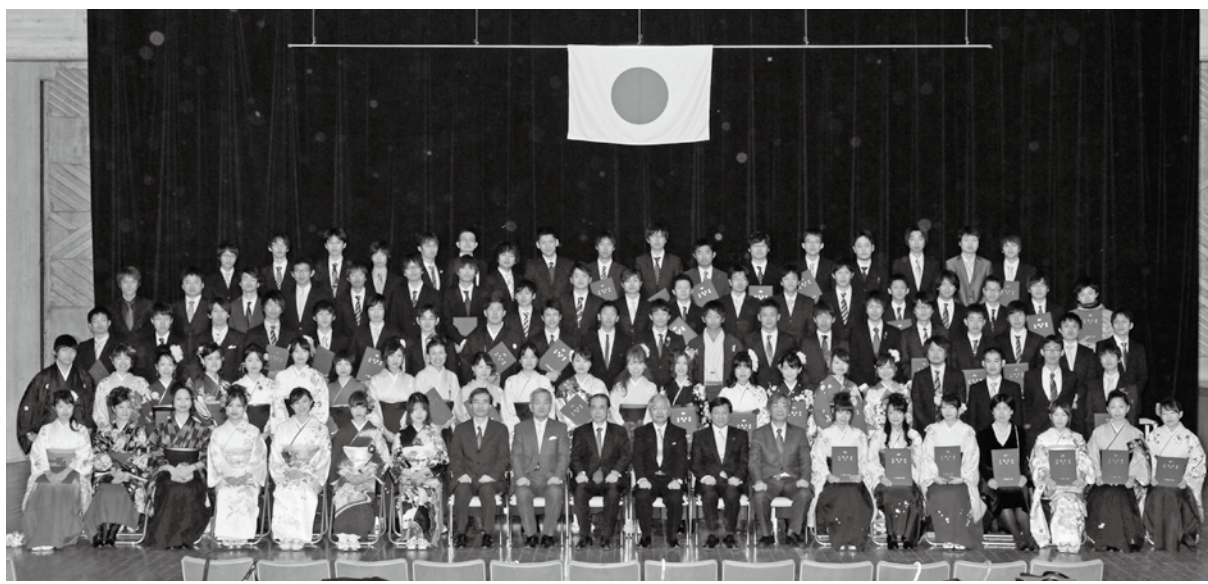


(詳細記事は31面)

院長を初めとする教職員の皆様方の献身的な教育により、また当然卒業生の皆さんの自己修練により、今やどこに出ても恥ずかしくない医師一年生に育っています。千葉大学医学部は学問的にも社会的にも素晴らしい先輩を輩出しておりますが、これらの方々に並ぶような、さらには超えるような人物になるよう努力して頂きたいと思えます。皆さん

### 紙面紹介

総会開催のお知らせ	1	著書紹介	21
卒業祝辞	2	雑文雑談	22
名誉教授から	3	会員から	23
就任挨拶	4	インタビュー	24
叙勲感想	5	クリニック紹介	25
最終講義	6	卒後研修先	26
各地のみのほな会	7	論議	27
クラス会	8	卒後研修先	28
追悼文	9	入学者名	29
学内情報	10	人事異動	30
研修プログラム	11	議事要旨	31
研修修だより	12	オンライン会報	32
	13	会館設立	33
	14	編集後記	34
	15		35
	16		36
	17		37
	18		38
	19		39
	20		40



(前面のつづき)  
瀧口正樹教授を長とする出版委員会により近日中には135周年記念誌が刊行されます。また、医学部の前身の

千葉医学専門学校、千葉医科大学の頃から脈々と伝わる「千葉医学の伝統」を具体的な言葉で表現する、いわゆる言語化プロジェクト

も田邊教授のお骨折りに取りまとめられました。一つは、100年以上前、後に千葉医科大学の初代学長となる三輪徳寛教授が好んだ「獅胆鷹目行以女手」という言葉の図案化であります。これは「医師は、ライオンのように強い心と鷹の様に鋭い目を持ち、しかも手技はあくまで優しくなければなりません。もう一つは名医として世界に名を馳せた中山恒明教授の研究に対する心構えを示した「まず始めること、始めたら止めない」と「すなわちbegin,continueになりました。どちらも千葉医学の伝統として素晴らしい言葉です。皆さんも、折に触れて心の糧とすることをお薦めします。

本事業の中核である新同窓会館設立にしましては、第一期工事の予定地を図書館脇の駐車場に決定し、入札進行中です。この場所は、亥鼻キャンパスのほぼ中心に位置しており理想的な場所だと思えます。同窓会館は、サークル活動など学生の種々の活動に必須であるだけでなく、教職員、先輩達との交流を通じた人間形成にとっても大切な場所であります。なお、第二期工事としては、歴史的な資料の展示室等を中心とした同窓会のシンボリックな建物を建てたいと願っておりますので、皆さんもご期待頂くと同時に、ぜひご協力のほどよろしく願います。

の展示室等を中心とした同窓会のシンボリックな建物を建てたいと願っておりますので、皆さんもご期待頂くと同時に、ぜひご協力のほどよろしく願います。

同窓会のもう一つの目的である医学部の支援につきましては、現在でも、多くの支援を行っています。皆さんも、これからは、今度は自分達が千葉大の後輩達、あるいは母校を支援するのだ、という意識を徐々に育てて行くて頂きたいと思っております。そうすることを通して、皆さんは、ますます母校を愛し懐かしむと同時に、千葉大学医学部の卒業生、同窓生であることに一層の誇りを感じて頂けるものと信じております。

以上、簡単ですがお祝いとお願いの言葉を述べさせていただきます。もう一度、本日は大変おめでとうございました。

## 名誉教授から

### 新年度挨拶



磯野可一 (昭33)

新年度に当たりましては、本来であれば夢と希望を述べるのが筋だと思われませんが、近年の日本の実情を鑑みれば期待することはあまりに少なく、多くの困難と苦難が待ち構えているように思われ、皆さんの苦勞の程が推察されます。

既に、大学を離れたものであるだけに勝手な、失礼な事を申し上げましたが、お許しいただきたいと思えます。



# 就任挨拶

## 千葉大学大学院医学研究院

### 放射線医学

教授 宇野 隆 (昭63)



本年1月1日付で千葉大学大学院医学研究院放射線医学教授を拝命致しました。はじめ多くの先生方からご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

私は昭和63年に千葉大学医学部を卒業し、有水昇教授が主宰する放射線科に入局いたしました。画像診断学、核医学全般を学ばせていただいた後、国立国際医療センターへ異動し、様々な悪性腫瘍に対する放射線治療を中心とした臨床での研究を積みました。平成10年に千葉大学へ戻り、伊東久夫教授のご指導で「子宮頸癌に対する高線量率腔内照射における3次元的な線量分布と晩期直腸障害との相関」に関する研究で博士号を取得致しました。千葉

大学では、放射線治療の高精度化、とくに画像誘導放射線治療や強度変調放射線治療の導入を進める一方で、厚生労働省がん研究班を土台に各種がんに対する前方視的な臨床試験の立案・実施に参画してきました。また、高精度放射線治療を効率的かつ安全に提供するた

めの全国規模の品質管理、構造調査を行い、我が国の放射線治療設備、人員の配置基準を作成いたしました。肺癌に対する放射線治療実態、エビデンスの日常臨床への浸透に関する研究結果をもとにKomaki教授(米国MD Anderson Cancer Center)、Movsas教授(米国Fox Chase Cancer Center)など米国放射線腫瘍学会(ASTRO)の主要メンバーと経時的に意見交換を行いました。研究班での活動は、日本の放射線治療全般の品質向上に寄与し得たものと思っております。基礎研究では、教室の放射線生物学部門の先生方を

軸に放射線医学総合研究所との連携で、重粒子線を用いた共同研究を経時的に行い、Cucinotta教授(米国NASA)、Durante教授(独GSI)らと放射線生物学における世界の第一人者達から研究指導を受ける機会を得ました。今後引き続き、放射線医学総合研究所など近隣のアカデミック施設と研究者や設備を共有し、トランスレーショナルリサーチをさらに推進し、新たな研究成果や診療技術を生み出し各診療科の臨床に還元してゆきたいと考えております。

医学部附属病院においては、診療機器の整備にも力を注ぎ、平成20年度以降(C-MRI)などの大型機器の更新を進め、平成21年度は文部科学省の補助金を獲得することで高精度放射線治療システムを導入することができました。画像診断部門を強化し、放射線治療の高精度化、小線源治療体系の整備を行い、他の診療科からの期待に十分応えられる放射線治療を行うべくインフラの新たな構築に取り組んでまいりました。今後は、院内のみならず、地域医療に果たす放射線科の役割を明確にして、県内の人口や患者数、施設規模と診療レ

ベルに応じた画像診断装置、放射線治療機器、そして診断・治療それぞれの専門医等の適正な配置なども推進してゆきたいと考えております。

## 東邦大学医療センター佐倉病院

### 整形外科、運動器低侵襲治療センター

教授 中川 晃一 (平2)



平成24年1月1日付で、

東邦大学医療センター佐倉病院整形外科、兼、運動器低侵襲治療センターの教授を拝命致しました中川晃一と申します。私は平成2年に千葉大学医学部を卒業し、同整形外科教室に入局を致しました。当時は守屋秀繁先生(昭42)が若くして教授に就任されて間もない時期でした。高い志を掲げ活気に満ちた雰囲気の中で、素晴らしい先輩や同期に恵まれて医師としてのスタートを切ることができたのは、

社会や他の研究者に還元するとともに、学生や若手医師を育成する使命を負うことを肝に銘じ、今後とも診療、研究、教育に邁進してゆくと所存であります。のびのびな同窓会の皆様には今後ともいつそのご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

が院長をお務めの習志野第一病院等において、さらに臨床経験を積ませていただいた後、平成14年から約2年間、米国シカゴのラッシュウ医科大学に留学して主に関節軟骨再生の研究を行いました。帰国後は千葉大学において、膝関節疾患を中心とした臨床と研究、教育業務に約5年間従事させていただきました。

卒後20年の節目の年となる平成22年4月に、高橋和久教授(昭51)ならびに東邦大学整形外科の勝呂徹教授(昭47)のお勧めをいただき、東邦大学医療センター佐倉病院へ准教授として赴任を致しました。当初はいろいろと不安もありましたが、一緒に赴任した青木保親先生(平6)、中島新先生(平7)をはじめとする素晴らしいスタッフに恵まれ、また佐倉近隣の千葉大学同門の先生方の多大なご支援のおかげもあり、この2年間で佐倉病院整形外科の業績を大幅に伸ばすことができました。この度昇任させていただきましたのも、今までお世話になりました多くの皆様方のおかげであり、この場をお借り致しまして、改めて御礼を申し上げます。

本院は、若いスタッフが多くてやる気と活気に満ちており、診療科や部署を超えて団結力があります。救急診療も含め地域医療の中心を担う責任があるのと同じ時に、大病院としての研究・教育活動も行わなければならない大変忙しいですが、このような素晴らしい環境の中で仕事ができることを、本当に幸せに思っております。高齢化社会において、外傷、関節病、脊椎脊髄病など運動器疾患を幅広く扱う整形外科に対するニーズは益々高まっています。これからも「心温かに、精力的に、学究心を持って、医療に貢献」することを信条に、地域医療のために、整形外科の発展のために、より一層精進努力していく所存です。のびのびな同窓会の皆様、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

ご住所・ご勤務先等に変更がございましたら当会にもご一報ください。

電話 (043) 202-3750

FAX (043) 202-3753

e-mail : info@inohana.jp

### 受章の挨拶

### 紫綬褒章を受章して

神戸大学大学院医学研究科  
内科学講座 糖尿病・内分泌・腎臓内科学  
分野 糖尿病・内分泌内科学部門  
生理学・細胞生物学講座 細胞分子医学分  
野 細胞分子医学部門(兼任)

清野 進 (神戸大・昭49)



平成23年11月の紫綬褒章受章の際には、千葉大学関係者の皆さまより心のこもったお祝いの言葉をいただき、あらためて御礼を申し上げます。千葉大学の皆さまより祝福されるうれしさは格別です。

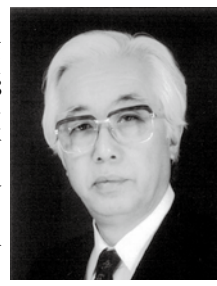
これまで、日本を代表する世界的な内分泌学の権威である井村裕夫先生、2型糖尿病のサブタイプMODY (Maturity-Onset Diabetes of the Young) を発見されたファイアンス先生、プロインスリンを発見したスタイナー先生、インスリン遺伝子、グルカゴン遺伝子のクローニングやMODYの原因遺伝子を解明したベル先生をはじめ国内外のよき師に育てられ、よき先輩、同

僚、後輩に恵まれ、出会った人々と心を通わせながら、また家族に支えられて今日まで約30年にわたり研究を続けることができました。このたびの受章は私がこれらすべての人々とともにいただいた章であると考えておりますので、皆さまとの喜びを分かち合うことができましたことが何よりの幸せなことでした。

振り返ってみますと、千葉大学への着任は思いもよらない出来事でした。平成3年1月のある日、千葉大学の谷口克教授から突然電話があり、当時の医学部附属高次機能制御研究センターの発達生理学分野の教授選に出ただけませんかといわれました。千葉大学とはまったく縁もなかった私にとっては突然のことで驚きでありましたが、せっかくお誘いいただいたので書類を提出することにしました。当時、私はシカゴ大

学でテニユアを付与された准教授に昇任することが決定していましたので、帰国は考えておりませんでした。4月になって私が千葉大学の教授に選出されたのを聞いて喜び、驚き、戸惑いが混在しました。平成3年9月に着任した当初は、長谷川修司助教授、黒見坦助手、故桜井耕一技官、種村美江子事務補佐員、吉田英彦(現みどり台歯科クリニック院長) 研究生の6名のスタッフでした。発達生理学分野を主宰されていた前任の故萩原彌四郎教授は神経生理学の専門であったため、私の目指す分子生物学を主体とする研究をゼロから立ち上げることになりました。平成4年に長谷川助教授の異動に伴い、京都大学大学院を卒業したばかりの稲垣暢也君(京都大学糖尿病・栄養内科教授)が助手として参加し、その後は2人で昼夜を問わず働き、ようやく私の目指す研究を軌道に乗せることができました。また、当時第2内科大学院生であった三木隆司君(現代謝生理学教授)も研究室に加わりました。千葉大学ではAMP感受性カリウム(KATP)チャネルの構造の解明によりグルコース応答性インスリン分泌の基本原

理を解明できたこと、またcAMPの全く新しい作用機構を解明できたことなど、このたびの受章の大きな理由となった研究をすることができました。これには谷口克先生や高次機能研究センターの諸先生方の温かいサポート、また多くの優秀な大学院生を送ってくださった当時の宮崎勝講師(現臓器制御外科学教授)や中谷晴昭教授(現医学研究院院長)との共同研究があったからこそできたことでした。この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。約12年の間、千葉大学でお世話になってから平成15年1月(16年3月までは兼任)から三木隆司助教授をはじめとする教員、大学院生、ポスドク、技術員など、ほとんどすべてのメンバーが神戸大学へ異動することになりました。アメリカから私が一人で着任したときは全く異なる状況でした。引越しも3回に分けるという大移動でした。神戸大学に異動後も幸い研究を発展させることが出来たのも千葉大学での研究が基礎になっ



瑞宝中綬章

### るのはなの気とともに

辻 陽雄 (昭33)

のみならず生き方にかかっていると思うと、身が引き締まる思いです。これからも研究だけでなく人間としても成長を続け、ハートのある医師・研究者でありつづけたいと心から願っています。

平成23年秋の叙勲に際して、はからずも瑞宝中綬章を頂く光栄に浴しました。これは、医学医療における教育と研究とくに整形外科領域を中心とした40年間の大学奉職(千葉大学および富山医科薬科大学)に対するものでありますが、当時を顧みるにつけ、苦楽を共にした方々と千葉大学整形外科教室のご指導のお陰であり厚く感謝している次第であります。

私は医学部を卒業し、一年間のインターンを終えた昭和34年に大学院生として整形外科の鈴木次郎初代教授に師事し「すべては努力に従ってくる」との一言に覚悟

ます。これからも精進して参る所存ですのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

貴学の今後ますますのご発展を心より祈念申し上げます。

主題も腰痛治療にあり、椎間板代謝および力学環境変化に対する物性応答と変性および脊椎骨髄の外科であり充実の日々でした。そんな中、着任早々に初代図書館長として充実と創立に関与したほか、平成7年からは医学部長として私なりに精一杯の努力の機会を得ました。

しかしこれら一連の管理運営の作業のなかには、残念ながら当時の国立大学行政にみた横並びの思想が根強くあり落胆を覚えたことも確かでありました。いまや大学は独立法人となりましたが一層の発展打破を念じる次第であります。

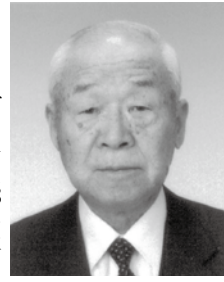
なお富山の地にるのはなから初代教授として活躍された泌尿器科学の片山喬名誉教授(昭31)ならびに眼科学の窪田靖夫名誉教授(昭28)はすでに瑞宝中綬章を授章されておりますこと感慨一入であります。

るのはな同窓会のさらなる発展をお祈りいたします。



### 瑞宝双光章 叙勲にあたって

土屋 恵 一 (信州大・昭36)



このたび、平成23年秋の叙勲にて瑞宝双光章を受章いたしました。身に余る光榮に存じます。

私は昭和36年3月に信州大を卒業し、中央鉄道病院でインターンを終了したあと、37年4月に千葉大整形外科に研究生として入局しました。はじめは医局講座制がなんとも前近代的でびつくりしましたが、「義理と人情」がモットーの鈴木次郎教授のもとで暖かい雰囲気

の医局でした。38年4月には沼津市立病院に勤務し、39年4月からは清水厚生病院に移りました。丁度東京オリピックの年で、はじめて東海道新幹線が走ったのを病棟の窓から見たのを思い出します。40年4月には副手として大学に帰りました。一方、42年になると、全国的にインスタン制度反対、待遇改善を求めて無給医の診療拒否などの医学部紛争が盛んに

5月には守屋秀繁教授が誕生します。

なり、千葉大にも波及し、私も無給医局長として医局会でストを提案しましたが、鈴木次郎教授(医学部長)

に軽く一蹴されました。42年7月には助手となりましたが、43年1月に鈴木次郎

教授が東京駅頭にて急逝されたので、8月には井上駿一教授が誕生しました。また、

12月には東大が次年度の入学中止を決定し、44年1月には青医連が立てこもっていた安田講堂は落城しましたが、6月には千葉大が学生が無期限ストに突入しました。12月9日には整形外科病棟を井上教授が回診中、スト継続派と中止派学生の小競り合いが起きました。しかし12月中には封鎖されていた医学部記念講堂も開放され、その後青医連運動も沈静化に向かいました。私は鈴木次郎教授の考案した「腰椎椎間板ヘルニアに対する腰椎前方固定術の研究」で博士号をいただき、48年4月に講師となり、主に小児股関節疾患の治療・研究にあたってまいりました。

62年9月に井上駿一教授が若くして逝去され、63年



### 厚生労働大臣賞 厚生労働大臣賞を受賞して

石毛 忠 雄 (昭34)

昭和8年東京都生まれ。千葉大学医学進学課程在学中は全学連加盟千葉大学学生会委員長を務めたりした。昭和34年医学部卒業後、大学院農村医学専攻科に入学。

りました。他方、日本は高齢社会となり国民総医療費は急激に増加し、当病院でも経営改善会議がもたれ、患者サービスの向上、病床利用率の上昇などにむけて大いに努力したところ。平成12年3月には定年退職をむかえ名誉院長となりました。今回、はからずも当時看護部長であった浅川知子さんも同時に叙勲されましたので、佐原病院の地域医療に果たした役割が高く評価されたものと考えております。これもまた、県立佐原病院職員一同の多大なご努力、ご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

年に土日と夜間に鍼灸を主にした石毛医院を開業した。そして昭和39年大学院卒業後、正式に保険診療も行った。診療もかなり多忙であったが、その一方で、労働衛生コンサルタントの資格を取得したり(保497号)、労災指定医や肢体不自由指定医の指定も取り、さらに農村医学専攻科出身のせい、か、県農業改良課、県農業協同組合、県労働基準協会連合会、との関係が深く、医療・保健などの講演(開業50年間に五百余回)・農協健診を行ったり、各種委員を委嘱されたり、看護師・保健師・栄養士・鍼灸師・療術会・医学部農村医学講座等々の非常勤講師を勤めたりと、今にして思うとよくやれたと思うほど多方面の活動をしてきた。今回の表彰は後述に対してであるが、これ以前にも諸機関から16回の表彰を受けている。そのうちに、町の保健師等を通じて県の福祉関係当局との関係が深くなり、高齢者の寝たきり予防事業に取り組むなかで、高齢化社会の到来を実感するようになった。そこへ昭和57年に老人保健法が成立し、「寝たきり高齢者を起す。寝たきりを予防する」という理念のもと、病院と家庭の中

変えた。このように入所者の目線で改良に改良を重ねた。すなわち、現在、全国の施設で行われているケア等は、我々創成期の老健施設建設に携わった者たちの工夫の賜物であると自賛している。残念ながら、私は平成21年以来3回の手術で、現在は理事長職のみ勤めているが、私の施設は創立以来の職員等が多数勤続しているの、始めは、入所者の主体性の尊重、明るい声が飛び交う雰囲気、褥創ゼロ、抑制ゼロ、ここに入所して良かったと言ってもらえる支援に努力すべしと職員を叱咤激励していたが、今はその必要も無い。この伝統を末長く続けたい。

**平成24年千葉県のはな会総会**

日時 平成24年6月2日(土)  
17時~(19時から懇親会)

場所 三井ガーデンホテル千葉  
〒206-8626 千葉市中央区中央1-11-1  
電話 043-224-1131

特別講演 18時~19時  
熱田 貴 先生  
日本ソムリエ協会元会長(現名誉会長)

同窓会活動を活発化して、  
母校の発展に貢献しましょう!

最終講義

無呼吸調節研究への道

マイ・ウエイ

麻酔学

西野 卓 (昭47)



呼吸調節の研究をするこ
とになったのは、おそらく、
学生時代に読んだ一つの教
科書の影響があったのだと
思う。その教科書は「Text of
Medical Physiology」という
本で、Author Guytonの単
著であった。Guyton自身は
循環生理学の大御所であつ
たが、この本は循環生理だ
けではなく、神経・内分泌・
呼吸の生理は勿論のこと、
免疫学の入門まで書かれて
いた。この本を読んでから、
基礎医学と臨床医学の橋渡
しになるような仕事をした
いと思うようになった。卒
業後、生理学を学ぶことが
臨床医学への近道と本能的
に感じた部分もあり、生理
学が一番近いと思われた麻
酔学を学ぶため麻酔科に入
局した。入局した当時は、
日々の仕事をこなすために

一生懸命で、研究どころで
はなかったが、カナダ・モ
ントリオールに麻酔科レジ
デントとして働く機会をも
った頃から、研究したいと
いう気持ちが強くなった。
昭和51年に旧第二生理学の
故本田良行教授に弟子入り
し、私の呼吸調節研究の道
が開始した。最初に本田教
授から与えられたテーマは
「ヒトにおける代謝性アルカ
ロシスの呼吸に与える影
響」と言うものであった。
早速、学生さんを集めて、
メイロンを注射したり、重
曹を飲ませたりして代謝性
アルカロシスの状態を作
り出し、CO2に対する換気応
答について検討した。実験
は比較的順調に進み半年ほ
どで論文が完成し、British
Journal of Anaesthesiaに発
表することができた。次い
で行なった実験は自発的な
過換気後に発生する after-
discharge 反応に関するもの
である。この研究では自発
的な過換気を1分間程度続
けると過換気を中止しても

過換気状態が継続する反応
(after-discharge) が低酸素
では抑制されることを明ら
かにした。これらの研究は
現在行われている呼吸の中
枢神経回路の short-term
facilitation (SAT) の研究
に通じるものである。そう
こうしている内に米国ペン
シルバニア大学(ペン大)
に留学するチャンスを持つ
ことができた。ペン大では
Dr. Rubin に師事し、頰動脈
小体からの末梢化学受容器
活動の変化を記録し、化学
調節因子の変化や様々な薬
物の影響などについて検討
した。ペン大では研究以外
の面で、例えば世界的に活
躍する研究者と顔見知りにな
ることなどで自分の活動
範囲を大いに大きくするこ
とが出来た。2年間の留学
後に千葉大の第二生理に戻
り、研究を続けることにし
たが、テーマは末梢化学受
容器ではなく、気道反射と
した。これはそのまま末梢
化学受容器の研究を進めて
いてもボスであった J. L.
先生を越えることは到底不
可能であり、新しい研究分
野を自分で開発しなければ
ならないと思ったからであ
る。鼻から末梢気道まで刺
激すると直ちに目に見える
反応を示す気道反射は面白
く、何頭の猫を使用したか

がわからなくなるほど実験
をした。研究内容は、喉頭
痙攣、呼吸反射、咳反射、
嚥下反射などあらゆる気道
反射について神経学的な面
から検討し、さらに麻酔薬
の影響についても検討した。
昭和60年に国立がんセンタ
ーから水口公信先生が千葉
大学医学部麻酔学教室の二
代目教授として赴任するこ
とが決まり、
私が代わりに
国立がんセン
ターに出席す
ることになっ
た。国立がん
センターでは
それまで行な
っていた動物
実験を続ける
設備も時間の
無いことが最
初から分かっ
ていたので、
研究の対象を
動物からヒト
に変更し、手
術室を実験室
とするような
努力をした。
患者さん、外
科医師や看護
師の協力は思
いの他容易に
得られ、研究
を続けるには

理想的な環境が得られた。
そこで最初に行なったのは
ヒトの気道粘膜を刺激する
とどのような気道反射が誘
発されるかという検討であ
った。まず、少量の蒸留水
を気管内に注入することで、
無害な再現性のある気道反
射を誘発できることが分か
った。そこで、この方法を

利用し、ヒトでは少なくと
も6種類の異なる反射効果
が出現することを認めた。
これらは(1)咳反射(cough
reflex)、(2)呼吸反射
(expiration reflex)、(3)無呼
吸反射(apneic reflex)、(4)
Spasmodic panting 反応、(5)
呼吸緩徐反応(Slowing of
breathing)、(6)浅い瀬呼吸

反応(rapid shallow breathing)
である。これらの反
射効果は麻酔深度によって
影響され、各反応の麻酔感
受性が異なっている。例え
ば、咳反射は麻酔深度が浅
い場合に見られる反射であ
り、無呼吸反射は麻酔深度
が深い場合に見られる反射
である。その後、ヒトを対

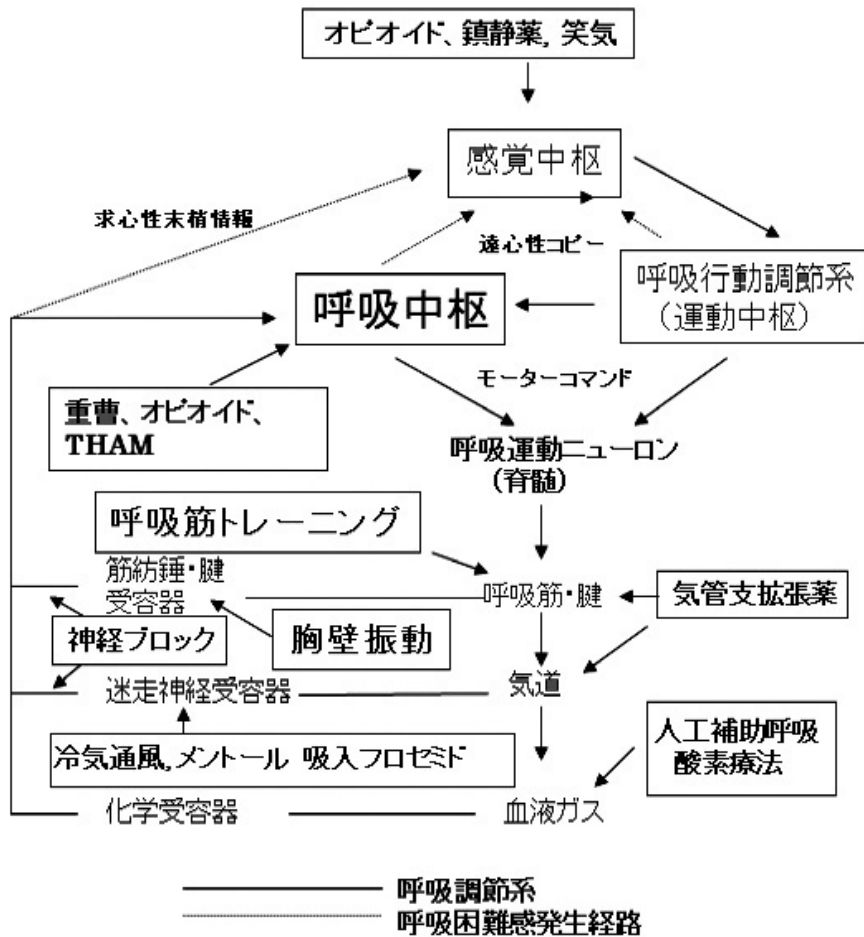


図1 発生機序に基づいた呼吸困難治療

象とした研究は続き、内視鏡画像を利用した喉頭反射や嚥下反射についても詳細な検討を行なった。さらに、これらの研究をまとめた総説を *Anesthesiology* (79: 588, 1993) 誌に発表した。国立がんセンターには築地で7年、その後新しく出来た柏の東病院での2年の計9年間を過ごしたが、今振り返っても、研究面では最も充実した期間であったと思っている。

さて、平成6年に再び大医学に戻ることになったが、前任の水口教授と自分の得意分野を結び付けた研究は何かと模索した結果、がん患者における呼吸困難の問題が浮かび上がった。実際、がん患者の呼吸困難は疼痛と同じ程度の苦痛を引き起こすが治療法に関しては何も遅れている現状があった。呼吸困難の研究はその発生機序の解明と発生機序に基づいた治療を目標とした。十数年におよぶ研究の結果、発生機序についてはかなり明らかになったような気がするが、根本的な治療と言えるようなものは未だに見つかっていない。ただし、幾つかの治療法となりうるような方法や薬物の有効性については報告することが

できた。これらは(1)重曹やTHAMによる代謝性アルカローシス、(2)低濃度笑気吸入、(3)胸郭外陰圧人工呼吸、(4)メントール吸入、(5)フロセミド吸入である(図1)。

これらのうち、THAM点滴投与、フロセミド吸入に関しては厚生省研究班の研究として、多施設共同臨床試験が開始された。以上のように、私は色々な施設で仕事をする機会に恵まれ、その度に少しずつ研究テーマを変えてきた。しかし、基本は呼吸調節であり、内容は異なっているが常に臨床応用を念頭において研究を進めてきた。当初、自分が考えた仕事の半分も出来なかつたような気がするが、幸せな研究生活を送ることが出来たと思っている。最後に学生さん並びにこれから研究を始めようとしている若い諸君に5つのメッセージを伝えたい。(1)目標を定め、日々の鍛錬を怠らないこと、(2)研究テーマは日常の臨床から見つける努力をすること、(3)強いハングリ精神を持つこと、(4)研究が一段落した時点で良い総説を書くこと、(5)良き先輩と後輩に囲まれるような人間関係を築くこと。

最後に、私は私なりの道を歩んだと思います。

### 無から有を生じる 生命科学探求の45年間

環境影響生化学  
鈴木 信 夫 (昭47)



45年間、いのはな山で生活させていただきました。多くの先生方によりご指導やご支援をいただき、深く感謝を申し上げます。また、その45年間を45分間へ凝縮させての最終講義ですが、その内容を構築していただいた共同研究者らへも、あらためて謝意を表する次第です。

さて、「人生即旅」とひとくくりにするのを心がけているつもりですが、やはり、45年間は長い道のりであったと想起されます。その道のりの研究・教育・アウトリーチなどの活動を終了するにあたり、本欄では、それらの活動を端的にまとめ、主として伝えておくべきことを記します。最終講義自体は、オンライン会報(ヤフーやグーグルなどからオンライン会報と検索していただければ、通常トップ項目で閲覧可能です)へ

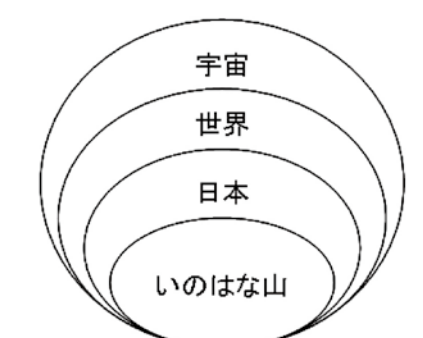


図1 諸活動の範囲



図2 活動の概念図

- 表1 研究テーマ
1. 変異発生制御の研究
  2. ストレス応答遺伝子の解析
  3. プロテアーゼ情報伝達系の研究
  4. 環境毒性物質の生物作用
  5. 早老の病因に関する分子生物学的解析
  6. 宇宙生命科学的研究
  7. 健康長寿と栄養に関する研究
  8. 神経変性疾患の病態解析
  9. 水の生命科学的研究
  10. 危機管理生命科学的研究

さて、「人生即旅」とひとくくりにするのを心がけているつもりですが、やはり、45年間は長い道のりであったと想起されます。その道のりの研究・教育・アウトリーチなどの活動を終了するにあたり、本欄では、それらの活動を端的にまとめ、主として伝えておくべきことを記します。最終講義自体は、オンライン会報(ヤフーやグーグルなどからオンライン会報と検索していただければ、通常トップ項目で閲覧可能です)へ

場を得た牛血液から作製する血清、みかん箱を活用してのクリンベンチ、自身の血液から採取するリンパ球系細胞、等々。それらから一体何が得られるかが本格的独自の研究生活におけるスタートでした。給料の約半分を実験費用へ投入する日々でした。では、それは、非常識の常識化、非科学の科学化、および未知の既知化です。それらの反対として、忌避してきたことは、単なるコピー&ペーストや移入・輸入の作業です。医学生や大学院生時代に強く決意したことです。そこで、最大の努力は、いのはな発・日本発の情報発信です。ヒトにおける新規のストレス応答生理機能を創成し、また、その基本原理から考えられる危機管理対応の社会組織を構築してきました。最悪の事態と現実を

配慮しつつの共同責任によるシステム作りです。その成果の一部を「人生これ日々SOS」と題した冊子で、2011年に千葉日報社より刊行発売させていただきました。また、長年来的強い依頼もあり、Research Signpostより「Human SOS Biological Science: From Fukushima and Chiba in Japan」と題しての英文版著書も発刊させていただきましたこととしました。一方、開発・保有してきた類のない培養ヒト細胞の実験システムの一部は、理化学研究所へ寄贈することとしました。以上記した参考資料などからご推察いただけると思いますが、45年間の諸活動は臨床の要求に即

かなうものではありません。今一人の命を救えなくても、10年後、100年後、あるいは数百年後、何千・何万人の人々へお役に立つことを夢見たものです。一見、途方もない独りよがりの歩みにも思われます。しかし、そのような人生を許していただいた「いのはな山」に、重ねて御礼申し上げます。本来、基礎医学とは、トランスレイショナル・リサーチでもなく、10年や20年後を目標しての科学ではないと考えます。勿論、基礎と臨床を結ぶ中間学問の発展、そのための人材育成を



ストレス社会対応の新しい教室

科学における創造とは、未知のものを既知化し、非常識のものを常識化するという作業といえます。私共の創造作業とは、突然変異という従来の概念を「変異には必然性有り」とする考えへと変更させるものです。変異とは、遺伝子の暗号が変わるなどして、生物の機能や形態が変更されることです。発癌や老化、あるいは生物の進化などに関わる生命現象です。この変異の発生を調節するメカニズムの解明は、生命研究の根源的課題です。私共の創造作業が進展すると、21世紀には、変異の発生を自由に左右させられる時代になるかもしれません。そうなると、発癌の苦しみから逃れられるかもしれません。しかし、そのようになるには、未だ多くの工夫が必要です。

現代はストレス時代といわれております。そこで、ストレスに超超高度で反応する実験システムを構築しました。世界に類のないものです。究極、どのようなストレス状態がヒトの健康長寿に最適かという難問を解き明かそうとしております。宇宙旅行時代となりつつある現代、果して、ヒトは地球圏外のストレスにも耐えられるのでしょうか。そのような疑問にも答えようとしております。言うなれば、過去を振り返るのではなく、ヒトの将来を推し量る進化未来医学という新しい学問分野を切り開こうとしております。

以上のような研究の基盤は、約30年前、大腸菌におけるSOS応答の実証に成功したことにあります。モールス信号のSOSにちなんでつけられた生命の危機管理応答です。このような仕組みをヒトに対しても活用することにより、危機管理医学という新しい学問体系も創造中です。「1発見から無限の貢献」を目標に、わずか20数名の構成員からなる教室ですが、多種多様な種類の学問の創造と研究成果の社会への還元而努力しております。

さらに全国各地で官民の協力も得て、食品や環境の問題と関連させた様々な市民講座を開催しております。例えば、水の生命科学アカデミー作りです。学問の創造から新しい社会コミュニティ作りの実践です。一方、そのような講座の実践成果を教育現場へも還元しております。学生自らに社会の問題を発掘させ、その問題の解決を目指させるという能動型カリキュラム(PST)を創造してきております。新規の教育改革であります。

知恵ではなく知識や実利を重視し数値化することに終始しがちな現代社会に対処している教室でもあります。

心にかけてはきました。しかし、残念ながら、時代はその逆です。臨床と基礎の一体化です。いのはな山を医学の府とするには、基礎医学独自の展開が必須なのですが、

ところが、そのような応用科学時代の現状とは裏腹な人材育成策を許せる地がない。何億年もかけて創造されたと考えられる生命現象を解き明かす作業は、まだまだ緒についたばかりです。一方、ヒトが宇宙へと飛び出す時代でもあります。従って、あらゆる可能性を含めての人材育成。そのような人材育成を許せる地が

千葉大学であることを願う次第です。おそらく、そのような地こそが、応用思考やトップダウン方式を重視する社会の限界を察知し、新たに到来すべき時代に対応可能となるでしょうから、

いずれにせよ、時代を切り開くのはな山としての発展を祈願し、その発展が、究極、いのはな同窓会員の一人一人にも反映されるよう、皆様と共に、今後も微力をつくしたいと思う次第です。

第88回千葉医学会学術大会

日時：平成24年6月12日（火）16：10～18：30  
会場：千葉大学医学部附属病院 3階 第一講堂

特別講演 千葉大学医学部（母校）への感謝

演者：永野俊雄先生（千葉大学 名誉教授）  
座長：加濃正明先生（北里大学 名誉教授）



永野俊雄先生

招待講演 生殖細胞の分化と受精／初期発生：  
制御機構と不妊症治療への応用研究

演者：年森清隆先生（千葉大学大学院医学研究院 形態形成学 教授）  
座長：市川智彦先生（千葉大学大学院医学研究院 泌尿器科学 教授）



年森清隆先生

参加手続き及び費用は不要

多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます

問合せ：千葉医学会（〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1千葉大学医学部内）

TEL：043-202-3755 FAX：043-202-3757

e-mail：info@c-med.org URL：http://www.c-med.org



# 論 点 福島第一原子力発電所 事故による健康影響

## 0.5%のガン死亡率増加は変動の範囲か？

高木学校 崎 山 比早子 (昭40)



福島第一原発事故から1年になるうとしている。政府は昨年12月に早々と事故収束宣言を出したが、溶融した核燃料が原子炉と格納容器の底を突き抜けてコンクリートにめり込んでいる可能性もあり、激減したとはいえ今でも放射能の放出は続いている。損傷を受けた1号機から4号機までの冷却プールには合計49トンにも及ぶ使用済み核燃料(死の灰)がある。冷却水漏れはしばしば起きているし、地下水の汚染も心配されている。大きな余震が来たら傷ついた原子炉や冷却プールは持ちこたえられないのか？現実には収束とは程遠い。

3月12日から20日かけて格納容器の圧を下げるために行われたベントと1、3及び4号機の水素爆発のために大量の放射能が放出さ

後に行われた被ばく検査も2週間近く後に行われたために短い半減期の放射能はすでに消失しており初期被ばく線量の把握は困難である。

初期被ばくに加えて環境汚染による慢性的な外部被ばく、飲食物の汚染による内部被ばくが問題になっている。原子力安全委員会は3月に「国際的な考え方として100ミリシーベルト(mSv)までは、ほとんど健康被害は見られない」と発表し、10月に「100mSvでガン死亡率が0.5%上昇するがそれは変動の範囲である」と訂正した。さらに文部科学省は児童生徒の年間被ばく線量限度を20mSvとして、福島県のお母さん達をはじめとする全国の保護者、海外から強い批判を浴びた。最終的に年間1mSvを目指すとしたが、やっていることは校庭を除染し、生徒に線量計をつけさせて、屋外活動を制限していることくらいだ。この線量基準は国際放射線防護委員会(ICRP)の勧告に基づくとしている。

その結果では、ある一定の線量以下ではリスクがゼロになるという境界の線量「しきい値」が見つかっていない。原爆の場合は短時間に全線量を浴びたので単位時間あたりの線量は高い(これを高線量率という)。

ICRPの発がん予測は、しきい値なし直線(Linear)説に基づいて行われている。この説の基礎になっているデータは広島・長崎原爆被爆者の生涯追跡調査である。

イスの原子力発電所周辺住民に小児白血病が増えているという報告もある。周辺の線量は年間1mSvにも満たない。

「ICRPが無視し続けている心臓血管系、内分泌系、神経系、泌尿器系その他の非がん性疾患、遺伝的障害を引き起こすことが明らかになってきている。これらも考慮するとリスクはさらに上昇する。そもそも自然放射線と医療被ばく以外の公衆の年間被ばく線量限度は1mSvと定められていた。それは放射線に安全量が無いことから考えれば、核エネルギーを利用することを選択した社会における我慢量である。事故が起きたからといってこの我慢量を安易に引き上げても良いものだろうか。人口密度の高い日本では、旧ソ連のように多くの住民を避難させるのが困難であった。しかし、被ばくを

避けるために避難が最も効果的であるならば、どんなに難しくとも、放射線に感受性の高い妊婦、乳幼児、学童、青年を優先的に避難させるのが、原子力行政を進めてきた当局の義務ではないか。

福島原発事故以来この地震大国に54機もの原発を建設してしまっただけに今更ながら愕然としている人は多いだろう。事故の影響を受けて各地の原発の再稼働が止められており、3月末現在稼働しているのは1機である。再稼働が無ければ4月以後は原発はゼロになる。それで安全になるかというところではない。各原発サイトには大量の使用済み核燃料がある。福島事故で明らかになったように、この使用済み核燃料の冷却に失敗すると事故に繋がります。これらの管理には百万年の単位の時間を要する。原発を止めれば問題解決とはいかないものを我々の世代は後生に残してしまっただの。

大日本住友製薬

The Carbapenem Antibiotic

カルバペネム系抗生物質製剤

バイアル0.25g  
バイアル0.5g  
キット 0.5g

**メロペン**点滴用

Meropen 日本薬局方 注射用メロペネム 略号:MEPM

効能・効果、用法・用量、禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元(資料請求先)

**大日本住友製薬株式会社**

〒541-0045 大阪市中央区道修町 2-6-8

(製品に関するお問い合わせ先)

くすり情報センター

**TEL 0120-034-389**

受付時間:月~金 9:00~18:30(祝日を除く)

【医療情報サイト】<http://ds-pharma.jp/>

2011.1作成

# 各地のほな会 だより

## 埼玉のほな会

平成23年8月28日(日)のほな同窓会埼玉県支部総会が、大宮パレスホテルで開催されました。今年は大宮地区が当番幹事として、3月の東日本大震災による計画停電が懸念される中、準備を致しました。幸い、この夏の猛暑にもかかわらず、停電は回避され、無事に開催することができました。

平成22年度に逝去された5名の先生方に対し、御冥福を祈り、黙祷をささげました。

伊藤敏夫支部長(昭30)の挨拶の後、会計報告、本部報告、事業報告が行われました。財務状況が厳しい中、支部誌「埼玉のほな」を今年度も発行致しました。

(編集担当、野口哲夫先生) 総会の後、学術講演会を開催致しました。今回は、学内より、環境影響生化学教室 鈴木信夫教授(昭47)に、学内事情と「福島原発事故による放射線被曝状況の報告」について、ご講演

いただきました。最近の学生気質が以前とは随分変わってきており、自主性というか、さまざまな事に対し、積極的に取り組む姿勢に欠けている点などを取り上げており、時代の移り変わりを実感させられました。原発事故による放射能汚染についても、さまざまな情報が入り乱れる中、先生が現地で集められたデータや、その他、世界から出されたデータを解りやすく解説していただき、埼玉、千葉では被曝はそれ程心配する必要はなく、食品の放射能汚染についても、過剰に神経質になる必要はない事など、安心させられるお話でした。

学外からは、帝京大学医学部附属溝口病院整形外科教授の出沢明先生(昭55)に「間歇性跛行の病態と最新の低侵襲治療」について、講演していただきました。出沢先生は、井上駿一教授の最後の弟子の一人で、脊椎の血行動態がご専門ですが、脊椎の内視鏡手術のバイオニアの一人であり、世界的に著名な先生です。わずか数ミリ径の低侵襲手術に取り組んでおられ、術中ビデオを数多くお見せ下さいました。先生の卓越したテクニックを求め、プロのスポーツ選手や著名人か

らの依頼が多い様です。先生の診察の予約は7年先までうまっているとの事です。それでは病状が悪化して動けなくなってしまうのではと質問したところ、関連病院で手術したりもしているとの事ですが、さばききれないとの事でしたので、優れた弟子をどんどん育てていただきたいものです。

講演会終了後、懇親会に移り、井上幸万先生(昭27)のご挨拶があり、今日が85歳の誕生日との事でしたので大変に盛り上がりました。井上先生は、大変お元気で、お酒も大分すすんでおられました。

埼玉には、深谷日赤病院 熊谷総合病院、さいたま日赤病院、久喜総合病院(旧幸手総合病院)、獨協越谷病院等関連病院が多くありますが、勤務医の若い先生方の参加が少ないのが寂しく感じられました。私(中村勉)は、大宮地区では、未だに下っ端のままです。

参加者は38名+2名で、来年の再会を期して、お開きとなりました。  
出席者(順不同、敬称略)  
栃木亮太郎(昭40)、横田俊二(昭30)、高橋康(昭30)、井上幸万(昭27)、出沢明(昭55)、伊藤敏夫(昭30)、



鈴木信夫(昭47)、田口勝(昭34)、森碧(昭31)、桜井正則(昭33)、吉川広和(昭40)、佐内明子(平3)、東栄子(平7)、大友一夫(昭46)、太田秀幸(広島大・平

元)、松本生(昭36)、小川富雄(昭48)、門山周文(昭51)、松山迪也(昭35)、冠木徹彦(昭40)、諏訪敏一(昭43)、野口哲夫(昭48)、伊藤進(昭43)、岩本容武(平5)、三澤博文(昭54)、斎藤弘司(昭43)、植松武史(昭55)、伊藤博(昭56)、木村純(昭49)、井坂茂夫(昭51)、中村勉(昭52)、伊藤俊紀(川崎医大・平12)、五月女直樹(昭49)、渡辺恒家(昭54)、兵頭明夫(昭52)、中川宏治(昭59)、杉浦敏之(昭63)、林田和也(昭52)、済陽高穂(昭45)、赤井壽紀(昭43)

(中村 勉)

## 習志野のほな会

平成24年2月28日

冨え返る季節の中、習志野第一病院三橋稔(昭35)先生のご協力で、コール・ポニョ・ポニョに於きました。栗原伸夫(昭38)会長の挨拶、会務報告、協議事項に引き続いて、中田敏博(平5)先生による『世界の最先端医療イノベーションへの挑戦』の演題で講演を拝聴しました。先生は医学部卒業後MITのMBAの資格を取得し、シリコンバ

ーで先端医療技術に対して資本投資をして育てていく事業展開をしていました。日本では人工心臓や大動脈弁のカテーテル治療など最先端医療が認可されにくく、企業が技術的努力はしているものの国の認定が遅れ、いまや医療後進国になりつつあると述べられ、さらにこの国を変えるために政治家としての活動を目指しているとお話しをされました。引き続き行われた懇親会では各自近況報告を述べられ、三橋稔(昭35)はヨット部で学生時代の思い出を語り、最近海外旅行をして世界中を見て回り、また絵を描いている。大木健資(昭40)は赤坂迎賓館を抽選で当たり見学し、当時の国家の勢いと建築美術の美しさに感激を覚えた。林崎勝武(昭44)は千葉大学から旭川医科大学に赴任したころの思い出、現在は音楽鑑賞に愛妻との海外旅行など多趣味に生きている。小林智(昭58)は狭心症に対するカテ治療がさらに数を増し多忙を極めている。堀部和夫(昭52)は震災直後の南三陸町での医療支援活動の際に撮影した、避難所に一緒に連れられたワンコが悲しげに東の空を見ている写真が昨年の千葉県医



師会学術大会の表紙に選ばれてうれしいと報告。寒さの中、散会となりました。  
出席者右から  
前列：堀部和夫（昭52）、三橋稔（昭35）、中田敏博（平5）、栗原伸夫（昭38）、神崎頼仁（昭46）  
後列：林崎勝武（昭44）、木

下知明（平2）、大木健資（昭40）、細井湧一（昭44）、小林智（昭58）、杉本克己（平5）、山本和夫（昭51）  
（堀部和夫）

# ク ラ ス 会

## 六 葉 会 （專24）

毎年10月の最終日に行われてきた六葉会でしたが、平成23年度は都合により平成24年1月9日に新年会を兼ねて「銀座アスタールお茶の水賓館」にて開催することにしました。  
私達の同窓生156名のうち住所不明1名を含む物故者88名を除く生存者68名全員に対し神山一郎幹事の努力により案内状を差し上げましたところ、10名の先生方より出席の返事をいただきました。欠席者の80%は体調不良であることも判りました。

幹事の努力によりようやく開会にこぎつけましたが、当日になり3名の会員より体調不良のため欠席の連絡があり、出席者は7名となりました。本年度の7名の出席の先生は例年出席して下さる先生でしたので、会の盛り上がりに欠けるのではないかと心配しながら神山幹事による経過報告、会計報告、物故者に対し、御冥福を祈るお言葉

さげてから乾杯し開会となりました。  
会は例年どおり出席者全員から学生時代の思い出話、卒業後の医療現場での活躍から余生の予定など自由に発言していただきました。とくに今回水戸からかけつけてくれた木村強君は今回の東日本大震災で大きな被害をうけ、全壊状態にしかか今後どのようにするか、はつきり方針が立たず悩んでいるとのことでした。  
なお出席者は全員が現在でも何らかの形で医療に従事していることが判りましたが、一方で大部分の人が何らかの趣味に時間を過ごしていることも判り大変頼もしく思いました。スピーチに楽しく時間を過ごしているうちに閉会予定の午後3時になりました。今後六葉会の運営について相談したいように内定いたしましたので宜しくお願致します。  
すなわち2016年（平成28年）の



10月に開く六葉会は出席人数に関係なく（全員が米寿を迎えているはず）開催しこれをもって六葉会を解散致したいと存じます。なお本年（平成24年）から平成27年までは毎年事務局より案内をし、出席者が10名をこえる場合には開催することと致したいと存じます。御意見などございましたらお知らせ下さい。  
出席者右から  
前列：村磯旺嗣、木村強、神山一郎、小笠原竜雄、後列：徳政義和、唐木一守、霜島正雄  
（神山一郎・徳政義和）

## 三 五 会 （昭35）



三五会は、その名に因んで毎年3月5日に近い日を選び開催している。昨年は3月5日（土）に行ったが、その6日後に東日本大震災が起こり、日本列島を震撼させた。全ての被災者に哀悼とお見舞いを申し上げるとともに、同級生で被災された方のいなかったことを互いに安堵しあった。  
平成24年の三五会は、3月4日（日）に、昨年と同じ銀座アスタールお茶の水賓

館で開催された。本年は今までと異なり、参加者の利便を考え日曜日の昼間に行うこととし、12時30分からウェルカムドリンク、13時に開宴とした。出席者は27名。開宴までに全員が集まり、先ず、この1年間に逝去された植松貞夫君、宇田川敏二君、塩田彰郎君を偲び黙祷を捧げた。ちなみに、同級生87名のうち物故者は24名になる。

酔う前にと全員で記念写真を撮影し、次いで宴会は三五会幹事の一人沈重博君の挨拶と乾杯の発声で始まった。山形から参加した真島吉也君や久しぶりに参加した人など有志によるスピーチ、女性参加者による鶏蒸し焼きの包み割りなどなど、時の過ぎるのを忘れて歓談した。

来年の開催について会場、曜日、時間の希望を聞き、来年も本年と同じ銀座アスタールお茶の水賓館で、3月3日(日)13時開宴で行うことに決定。幹事は今年のメンバーに茨城の横山孝一君が加わるようになった。15時30分、和気藹々の中で横山君の発声による中締めとなり、無事終了した。出席者右から  
前列：神田敬、母里啓子、沈重博、谷嶋つね、成田静

子、藤村眞示、

後列：中田益允、高橋徹、横山孝一、真島吉也、市村公道、山崎英雄、鈴木茂、佐藤甫夫、村田光範、岡田光生、増田善昭、宮下瑛、道場信孝、内西兼一郎、小野勇、村松準、榊原秀三、三橋稔、西川侃介、岩瀬秀一、大井利夫  
(大井利夫)

**さんろく会 (昭36)**  
**卒業50周年祝賀会**

千葉大学医学部に6年制の医学進学課程が発足して初めて卒業の1期生であるさんろく会(36会)の面々は、卒業して半世紀を経た平成23年11月20日、帝国ホテル菊の間で、卒業50周年記念祝賀会を開催した。

ほとんどの者が75歳前後なのでやはりトシは争えず、当初予定の61名より12名キヤンセルの49名(会員41名)で、写真撮影後、関幸雄元川鉄病院院長の司会で開始した。

冒頭、司会者より、千葉大学学長齋藤康先生、そして中谷晴昭医学部長、伊藤晴夫同窓会長からの祝電が披露された。限られた時間で全員がスピーチとはいかないので、

予め欠席者も含め全員から近況報告を書いて貰い、冊子にしたものを当日配布し、発言者は幹事団指名の者に限らせて貰った。

先ずは、幹事団を代表して青木より今回開催の経過を含めた挨拶があり、山崎修道国立感染症研究所名誉所長より、一ヶ月前に逝去した中島伸之千葉大名誉教授の想い出と、不活化ポリオワクチン開発の経緯と現状について講話があり、

昨年の36会岡田信道幹事長の乾杯の音頭で乾杯し、懇親会となった。

司会進行が前嶋清元小見川中央病院院長に代わり、途中、幹事団からの指名の吉川武彦清泉女学院大学学長(元国立精神神経研究所長)、塚原重雄元山梨大学副学長、中田義隆つくば市医師会長(元つくばメディカルセンター長)の現況報告等が断続的にあり、和気藹々のうちに、あつという間に楽しいひとときは過ぎてしまった。次期36会は埼玉県在住者が担当し、埼玉での開催が決まり、幹事長となる松本生元寄居こども病院長の挨拶があり、来年も元気に再会することを約し、別れを惜しみつつ、三々五々帰途についた。

この日は、祝賀会に先立

ち、午前11時より隣接の東京宝塚劇場で雪組公演(デュマ原作「仮面の男」)を、希望した18名(会員は13名)が観劇したので、特に二次会は設定しなかった。

**36会プロフィール**

昭和30年4月 新発足医学部医学進学課程1期生入学生(受験時競争率36・6倍)  
昭和34年5月 当の会は同窓会報第1号発刊(黒田健昭編集長、松本生、末吉貫爾、下鳥隆生)  
昭和34年11月 第5回全国医学生セミナー主管(委員長小倉敬一、副委員長吉川武彦・岡田信道、事務局長谷合明)

昭和36年3月 卒業半世紀に亘り、医学教育、医学の進歩、医療の充実に貢献、その証として、国立研究所長・前記2名、大学副学長 小越章平(高知・塚原重雄(山梨)、教授11名(千葉大今野昭義、中島伸之他)、国公立病院院長10名(横山健郎佐倉病院院長他) 全国保健所長会会長小倉敬一、地区医師会長4名。

現況 卒業83名 鬼籍に入つた者14名、音信不通5名、病気療養者3名+a  
**卒業50周年祝賀日誌**  
平成23年4月3日 主たる祝賀会として母校見学・連絡道路で観核、京成ミラマ

1レでの祝賀会等設定していたが、東日本大震災のため急遽中止。  
4月29日 袖ヶ浦(新袖コースでゴルフコンペ)10名出席。石下峻一郎、加藤喜市、黒田健昭、末吉貫爾、関幸雄、谷口滋、塚原重雄、



**念祝賀会(前出)**

これだけの行事を、順調に完遂できたのは、その行事毎に遂一級友全員に手紙で連絡をとってくれた黒田健昭元印刷市郡医師会長と彼の診療所スタッフの尽力による。

**出席者右から**

前列：齋藤利隆、加藤昌義、長谷川修司、関幸雄、黒田健昭、青木謙、福井進、前嶋清、近藤省三、加藤喜市  
二列目：青木夫人、佐藤由美子、中田夫人、前嶋夫人、長谷川幸子、副島訓子、福井夫人、国安好子、三宅伊豫子、宮代道子、川村孝子  
三列目：新井一夫、長尾孝一、松本一暁、野本一夫、岡田信道、野尻雅美、吉井逸郎、石下峻一郎、塚原夫人、山崎夫人  
四列目：藤原立夫、鈴木光、松山輝男、松本生、山角博、白石博康、栗原正明、田部井徹、吉川武彦、栗原稔  
五列目：福山悦男、守山洋一、小池宏之、谷合明、中田義隆、谷口滋、塚原重雄、山崎修道

前嶋清、松本生、青木謙。10月15日 山形県天童市天童ホテルで祝賀会。  
10月16日 蔵王散策。27名参加(会員19名) 前号で詳報。  
11月20日 宝塚雪組観劇。帝国ホテルで卒業50周年記

オンライン会報 クラス会・他大学に「卒業50周年記念祝賀会」を動画で掲載しています。

平成2年卒同期会

平成2年卒同期会が、平成24年3月10日午後6時から、浦島哲郎君の幹事で、ザ・プリンス箱根（神奈川県足柄下郡箱根町元箱根）で、はじめての宿泊で開催されました。気づけば、卒業22年を経過しております。浦島君は、メールのみならず郵送でも同期の皆に連絡をとってくれました。私は、東名高速道路厚木ICの経由で小田原厚木道路経由で車で行って、渋滞にであつたり、峠でちらちら舞う雪に出会つたりと、土曜日の午後のドライブもそれなりに楽しかったですが、電車では新幹線であつたという間についたそうです。さて、幹事の浦島哲郎君の司会進行により、岡本和久君の乾杯のあいさつの後、おいしい夕食に満喫しました。都内での講演のため、遅れて到着した中川晃一君が、東邦大学医療センター佐倉病院整形外科の教授就任挨拶をされました。たいへんおめでとうございます。当日の様子は、安西尚彦君が、いのはな同窓会からビデオカメラを借りて撮影され、オンライン同窓会報に掲載されると聞いております。



さて、今回の会でも、学生時代のこと、仕事のこと、家族のことなど、過去の現在、未来の様々な話に花が咲いて、非常に盛り上がり、あつという間に時間がたつてしまいました。同期会を今後も毎年3月の第一（あるいは第二）土曜日に恒例で開催していくという話になり、次回は、岡本和久君が、岡田吉弘君とともに、来年は、錦糸町あたりで、話題のスカイツリーを見ながら（？）の開催を考えてくれるという話になりました。

したが、ほんのりと雪化粧をした山を見ながらの露天風呂は、格別でした。というわけで、同期会の連絡は、メールが中心なので、平成2年卒の方で同期会開催の連絡が来ないという人、一度、清水栄司のアドレス、ajj@tautuhy.chiba-u.jpまで、メールをお願いします。毎年、同期会を行います。よう！

出席者右から  
前列：辻博勝、仲野（柳田）敦子、中川晃一、渋谷真理子、清水栄司  
中列：野沢聡志、内野福生、神馬武裕、安西尚彦、浦島哲郎  
後列：根本俊光、岡本和久、鈴木敏幸、佐藤悟郎、老沼和弘  
最後列：太田真

た。また、一次会の最後に、太田真君のカメラで、素晴らしい記念写真を全員とることができました。二次会は、ホテルの部屋に二手に分かれて、再集結し、飲み物を持ち寄り、つきない話が続きました。浦島君のかわいらしいお子さんたちも登場し、二世の成長の様子が実際に伺えてうれしかったです。さて、早めに箱根に着いた人は、前日すでにホテル自慢の温泉「箱根湖畔の湯」も堪能したというので、私も翌朝入りまして、

紫峯会便り  
(山中寮OB会)

平成24年1月18日（水）午後7時から、千葉市内本町厨房TETSU流にて久しぶりの紫峯会・山中寮OB会（昭和47年卒から平成元年卒のOB有志）が開催されました。

今回は、今年3月をもって退官される西野卓教授

（麻醉学、昭47）の退官記念会で、総勢21名のOBが集まりました。

紫峯会OB会は久しぶりの開催で、卒業30年ぶりの再会とあってお互いに顔の解らないOBばかりでしばし困惑の体でしたが、青柳光生先生（昭49）の音頭で乾杯しアルコールがカラダに入るとすぐに昔と現在の顔が繋がり、昔の山中寮、寮委員に戻って緑酒を酌み交わしました。

山中寮80周年記念誌の編集状況や山中寮の現状が、大島朋光先生（昭53）から報告され、その後は西野教授の現役時代からの富士山に於ける驚異的な登山記録など、数々の思い出話が披露され、あつという間の2時間でした。

次の山中寮顧問は小林欣夫教授（循環病態医科学、昭63）との西野教授からの指名があり、最後に寮歌を歌い来年の山中寮開寮80周年記念式典で再会することを約束し解散となりました。

来年は山中寮開寮80周年です。夏の開寮期間中に記念式典が開催されます。青春を謳歌した山中寮の思い出を語り合おうではないでしょうか。

多くの山中寮OBに参加いただき、盛大な記念式典



にとなることを切に願っています。

写真右から  
前列：中村真人（昭54）、内藤正文（昭50）、徳久剛史（昭48）、西野卓（昭47）、青柳光生（昭49）、香村衡一（昭52）、山田善重（昭52）、大島朋光（昭53）  
中列：高田啓一（昭54）、由佐俊和（昭51）、小出義雄（昭50）、三浦正義（昭56）  
後列：砂田莊一（昭55）、岡陽一（昭56）、柴橋博之（昭55）、露口利夫（昭59）、平田貴（昭59）、石橋巖（昭55）、松尾浩三（昭55）、岩下力（平元）、小林欣夫（昭63）  
(大島朋光、中村真人)

追 悼

故 大藤正雄 先生を偲んで

千葉大学大学院腫瘍内科学 横須賀 收 (昭50)



今年1月21日の第一内科同門会でお元気な姿をお見送りして僅か9日、腫瘍内科学(旧第一内科)教室の元教授大藤正雄先生が1月30日に急逝されました。教室員はもちろん第一内科同門会の先生方は誰も大藤先生の訃報を信じられず、また信じたくない気持ちで2月3日のご葬儀の日を迎えました。

大藤先生は昭和29年に千葉大学医学部を卒業され、その後第一内科に入局、昭和34年に大学院を修了されました。その後、第八研究室(胆膵画像研究室)の責任者として、臨床に、また画像診断の開発に携わって来られました。昭和50年には第一内科講師に昇任、昭和53年にはサンフランシスコ・カルフォルニア大学に留学されました。昭和62年に奥田邦雄教授

したことです。

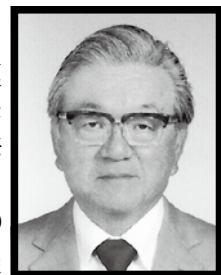
また、退官後には、放射線医学総合研究所重粒子線治療センターの客員研究官として、重粒子線治療の開発に努められました。最近では、さんむ医療センターにおいて、超音波治療法(HIFU)に取り組んでおられました。

の後任として、第一内科の第5代教授に就任され、平成7年に退官されました。医学部を卒業後、40年にわたって第一内科教室に人生のすべてを懸け燃焼し続けてこられたと、ご自身で述べられておられますが、その核になったものは、臨床と研究の両面から、新たな病気の診断技術と治療手段の開発に挑戦することでした。

その成果として先生は多くの功績を残されておられますが、第一に挙げるべきものとして、経皮的肝内胆管穿刺造影法を開発し、従来は診断が困難であった胆道腫瘍や胆石に関して、正確な診断を可能にし、治療法の開発に寄与したことです。第二には超音波診断装置をいち早く導入し、超音波映像下穿刺装置を開発し、肝がんを始め、各種消化器疾患の診断への道を開いたことです。第三には、肝臓がんの治療に、エタノール注入療法の開発を指導し、手術以外の肝がんの局所療法を開発

故 三井 静 先生を偲んで

清水 天 (昭39)



三井静先生が1月30日腫瘍、肝転移のためご逝去されました。享年74歳でした。昨年8月末ある宴席で、先生と隣り合わせて座り、ワインを飲みながら医師会の将来のこと、ゴルフの話、お互いの健康管理について楽しく語り合いました。それから数日して先生から電話があり、腹部に腫瘤を触れるのでペット検査を受けたら、膵臓癌が見つかったから入院するよと聞かされたので、山梨大学で検査の結果、肝臓、腹膜に転移がありインオペということで、抗癌剤の治療を始められました。最初2〜3ヶ月は原発巣も小さくなり経過良好のようでしたが、一月年が明けてから肝臓の転移巣が拡がり、腹水もたまるようになり、1月30日帰らぬ人となってしまいました。発症に気付いてからわずか5ヶ月という短い命でした。先生は身体も

大きく、スポーツマンで仲間の中で一番元気そうに見えただけに、いまだに信じられない気持ちです。先生は同郷の山梨県出身「中山恒明」先生に憧れて千葉大学医学部に生まれ、昭和38年卒業、第二外科に入局され、人工内臓研究室、移植班に所属、小高通夫助教授ご指導のもとで血液透析の研修をつまれました。昭和47年郷里の甲府に戻り三井外科医局を開業され、翌昭和48年より透析医療を始められました。昭和53年には診療所名を三井クリニックと変更して、透析医療専門施設としてスタートされ、今日に至っております。その間多くの透析患者の治療に当たられ、透析医会の会長も歴任され、県内の透析医のリーダーとして活躍されました。先生は私の一年先輩でして、学生時代から今日に至るまで、公私に亘り大変お世話になり御指導いただきました。

先生は日本医師会代議員、山梨県医師会理事、甲府市医師会副会長、理事等長年医師会の要職に就かれ、地域医療に貢献されました。そのご功績により、平成19年に県政功績者表彰を受賞され、なくなられた後、従六位旭日双光章が贈られました。先生ご夫妻はゴルフがお好きで、休日お二人でプレイされるのを楽しみにしておられました。先生はシングルプレーヤーでして、クラブチャンピオンにもなられました。年一回開催される医師会コンペでは4回優勝という記録も持つておられます。昨年は闘病中で参加できず、非常に残念がっておられました。三八会という同期会が毎年開催されるようですが、

お二人は同伴で毎年参加され、級友と飲んでゴルフをするのを楽しみにしておられたそうです。通夜、告別式に同期の松井宣夫先生、香西襄先生、加藤友衛先生が遠方からこられ、先輩に久しぶりにお会いできて懐かしかったです。生前の先生のお人柄と思いますが、葬儀の後も同期の友人がお悔やみに訪れていることがあっております。先生の追悼文を書くことは本当に残念ですが、長年に亘るご指導ご厚誼に感謝しつつ心からご冥福をお祈り申し上げます。

第14回のはな同窓会学外研究助成募集要項

第14回(2012年度)のはな同窓会学外研究助成の応募を左記により受け付けます。

- 一、助成対象 本会員で、大学およびそれに準ずる研究所以外の施設に勤務している医師および歯科医師が、個人またはグループの代表となつて行う研究。
- 一、助成金 本年度助成総額は40万円。
- 一、応募方法 6月1日から7月31日までに申請してください。
- 一、助成研究の決定 選考委員会および常任理事会の議を経て、会長が行います。
- 一、審査結果は2012年11月末までに各申請者に通知すると共に、のはな同窓会報に掲載します。
- 一、問い合わせおよび申請用紙請求先 千葉大学医学部内のはな同窓会事務局(申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることもできます)

# 学内情報

## のの は な 同 窓 会 支 援

### 白衣式祝辞

平成24年3月31日(土)

於 記念講堂

のの は な 同 窓 会 会 長 伊 藤 晴 夫

第二回目の白衣式を受けられる学生の皆さん、お目



出とうございます。ご家族の皆様のお喜び・期待も大きいかと思えます。また、教職員の皆様には、日頃のご指導に対して深く感謝致します。さて、皆さんは4年間の基礎的な勉強を終えて、これからは、Student Doctorとしての生活が始まる訳です。この言葉は田邊教授が導入されたものと理解しておりますが、studentではあるけれどdoctorであるという良い言葉だと思います。Doctorであるという自覚と誇りを持って卒業までの2年間、医学の本質に触れ、また高い医療技術の吸収に努めて下さい。皆さん御承知のように、千葉大学医学部卒業生は、最先端の医学研究から地域医療まで、あるいは福利厚生・行政などに関しても優れた人材を輩出しております。開業医に限ってみても、千葉大学卒業生の評判が飛び抜けて良いことは、皆さんも良く耳にすることだと思います。

のの は な 同 窓 会 は、この白衣式には発足当初より積極的な支援を致しており、本日の白衣式を迎えることは大きな喜びであります。のの は な 同 窓 会 を 紹 介 す る 前 に、小 さい こと で 私 の 経 験 か ら お 勧 め た い

ことが有ります。それは、すでに実行されているかも知れませんが、日記をつけること及び毎日皆さんが体験する診療についての日誌を付けることです。これは外科系の場合には手術記載をカルテ以外に個人的に残しておくことに通じます。手術の助手の場合には術者の云ったこと、自分の感じたことなどです。それにより後日の手術についての注重点・コツなどを思い出すことが出来ます。これは非常に役に立ちます。内科系の場合では、症例より学んだことや指導医の云ったことなどです。

さて、のの は な 同 窓 会 は 全 国 医 学 部 の 同 窓 会 の 中 で も 屈 指 の 歴 史 と 規 模 を 誇 っ て おります。その目的は、一つは医学部への支援であり、もう一つは会員の親睦と医道の高揚であります。医学部への支援では、例えば、図書館への助成金、雄翔寮支援、のの は な 祭・課外活動支援など数多くの支援を行っております。一方、のの は な 同 窓 会 に は 全 国 に、各 地 区 の の の は な 会 が あり ま して、2 年 後 に は 皆 さん が ど こ へ 行 っ て も、き っ と 力 に な っ て も ら え ま す。また、皆 さん は 既 に の の は な 同 窓 会 の 学 生 会 員 で

すので積極的に同窓会活動に参加して下さい。同窓会では、のの は な 同 窓 会 報 を 年 に 3 回、発 行 し て おります。8000部以上という膨大な部数です。ここで医学部・附属病院の近況、各支部の活動、クラス会の活動、その他会員の社会に於ける活躍や、皆さんのサークル活動などについても報告しております。最近では会報に加えて、ホームページの充実にも力を入れております。若い学生会員の皆さんの、このホームページを通じての積極的な参加を期待しております。ご家族の皆様も宜しかったらご参加をお願いしたいと存じます。

千葉大学医学部は創立後138年が経過しました。現在、同窓会が中心となり、医学部創立135周年記念事業を行っております。このための募金に関しましては日本経済が最悪な状況であるにも拘らず、ここにおられる後援会の皆様方、すなわちご家族の皆様からも多額のご寄付を頂きました。あらためて厚く御礼申し上げます。135周年記念誌は近日中に発行予定です。事業の中核である新のの は な 同 窓 会 館 設 立 について、現在入札中であり、新同窓会館は、サークル活動など学生の

種々の活動に必須であるだけでなく、教職員、先輩達との交流を通じた人間形成の場となることにも大いに期待を寄せております。

最後に、この記念事業では、「千葉医学の伝統」を具体的な言葉で表現する、いわゆる言語化プロジェクトも田邊教授のお骨折りに取り取りまとめられました。一つは「獅胆鷹目 行以女手」という言葉の図案化であります。これは「医師は、ライオンの様に強い心と鷹の様に鋭い目を持ち、しかも手技はあくまで優しくな

期待致します。

### のの は な 同 窓 会 支 援

#### 雄翔寮図書

医学部4年 図書係 堀 川 貴 史

同窓会のみなさん、いつも大変お世話になっております。同窓会の方々による寄付金という形で御厚意には、寮生一同、毎年とても感謝しております。

さて、同窓会のみなさんの寄付金が雄翔寮においてどのように利用されているかの紹介をさせていただきます。現在、寮の中には同窓会





費により購入された医学書が保管され、寮生によりいつでも利用可能な状態です。同窓会の方々による寄付は毎年行われているので、年季の入った古い教科書から最新の情報の載った教科書まで、多くの医学書があります。

購入する医学書は、寮生全体の話し合いにより決定され、6年間を通じてより有用な教科書が購入されます。

寮生は30人近くいるので、全体としてこの図書の使用頻度は多くなります。そこで、図書の紛失対策はもちろん、寄付された図書をなるべく長く、綺麗に使うために、寮生一人一人が責任を持って取り扱うようにしています。

また図書を大事に扱うために、一人で2週間以上借りない、借りるときは全体に周知する、ノートに借りた名前を残す、などのルールを設け、図書係が管理す

ることにな  
つていま  
す。  
私たち寮  
生にとつて  
医学書はと  
ても高価な  
ものであり、  
日々の食費  
も削らなくては教科書が購入  
できない寮生もいます。  
そんな状況の学生が多数集  
まった寮ですので、同窓会  
の方々により寄付された教  
科書はとて有り難く、ま  
た自己の学力の向上にも大  
きく役立っています。

私たちが同窓会の皆さん  
に感謝の意を示す最上の方  
法は、同窓会の方々の寄付

を無駄にせず、よりいっそ  
う勉学にはげみ、将来立派  
な医師となり社会に貢献す  
ることだと考えております。  
その上で、同窓会の方々ま  
た将来の医学生たちに恩返  
しをしていきたいと思っ  
ています。

最後に、右上の写真が今  
年寄付していただいた教  
科書になります。本当に、  
どうも有難うございました。  
寄付された本は寮生一人一  
人が大切に、より長く、綺  
麗に使っていきましょうとい  
う気持ちです。これからも  
寮生の活動を温かく見  
守って頂ければ幸いです。  
来年度もどうぞ宜しくお願い  
致します。

### 『ラグビー部2011年シーズン結果報告』

ラグビー部前主将 医学部6年 岡 谷 匡

この度、私が主将を務め  
ておりました千葉大学医学  
部ラグビー部における、2011  
年シーズンの結果を皆様にご  
紹介させて頂きます。昨年  
度はプレイヤー28名、マ  
ネージャー13名の計41名に  
て、夏と秋に二つの大会へ  
出場致しました。まずは8  
月に行われた第54回東日本  
医科学生総合大会ですが、  
その結果はというと千葉大

59回関東医歯薬リーグの結  
果ですが、リーグ戦の方で  
は4勝1敗にて二部リーグ  
優勝、続く入れ替え戦では  
伝統校順天堂大学医学部か  
ら勝利を収めての一部昇格  
を果たすことが出来ました。  
特にこの一部昇格というの  
は、金前主将からバトンを  
引き継いだ頃よりチームと  
して一番の目標としていた  
ことでもあり、部員一同こ  
のような結果が報告出来  
ますことを大変嬉しく思っ  
ております。

以上、昨シーズンを振り  
返ってみますと、これらの  
結果は丹沢部長をはじめた



くさんのOB・OGの先生  
方、そしてグラウンド改築や  
サークル新棟建設等で大変  
ご迷惑をおかけした中谷医  
学部長、並びに高橋学生支  
援部会長、無償で僕達を指  
導して下さいる坂本監督、亥  
鼻グラウンドへ応援に来て下  
さった100名以上の千葉大生  
の方々、その他本当に多く  
の関係者の皆様のご協力が  
あったからこそと痛感して  
おります。これまで千葉大  
学医学部ラグビー部をご支  
援して下さいた方々には、  
この場をお借りして心より  
御礼申し上げます。

さて、ラグビーは『one  
for all, all for one』の言葉  
に代表されるように、その  
他のスポーツと比べても特  
にチームプレーが重要なス  
ポーツだと言えます。もし  
てラグビーにおけるチーム  
プレーとは、全く異なる役  
割を持つ15人の選手による  
ものだけではなく、控え選  
手やマネージャー、監督・  
コーチ、レフリー、そして

時には相手チームの選手に  
も及ぶことがあります。千  
葉大における6年間ないし  
4年間の学生生活をそんな  
ラグビーと共にすることで、  
単なるスポーツとしての勝  
利を目的とする練習だけ  
なく、『この試合を良いゲー  
ムにする』という同じ目標  
のために、自分とは違う立  
場の人と良好な関係を築き、  
最高のチームワークを生み  
出すことの練習も、私達は  
グラウンドの中で行なってい  
るのだと思います。監督が  
目指すこのような『ラグビ  
ーを通しての人間形成』を  
心の片隅に置きながら、千  
葉大学医学部ラグビー部は  
以前と同様これからも活動  
して参ります。3月初旬よ  
り、小川新主将のもとで私  
達はまた新しいシーズンを  
スタートさせておりますが、  
新しいチームになってから  
も変わらぬご支援、ご協力  
のほど宜しくお願い致しま  
す。

### 「千葉大学医学部スキー部50周年記念曲」カラオケ全国配信を受けて

先日、カラオケ「OK SOUND」様より、「千葉大学医学部スキー部50周年記念曲」という曲が全国配信されました。千葉大学医学部スキー部(以下、スキー部)

清水 規 宏 (平24)



は、2009年に創部50周年を迎え、それを祝して京成ホテルミラマールにて式典が開かれました。式典当日、会場内で流す音楽や、部の歴史を振り返るムービーの中で流れる曲を自分達の手で作ろうという話になり、そこで私が作詞・作曲から編曲に至るまで手がけて頂くこととなりました。作詞・作曲・編曲は私が担当させて頂きましたが、ポーカーレコーディングに際しましては、部員たちに慣れないレコーディングに参加してもらいました。

式典は、お忙しい中遠方から駆けつけてくださった先生方や準備をしてきた部員たちの甲斐あって、大盛況のうちに閉会致しました。スキー部では年に2回のOB会や新歓コンパなどの3次会でカラオケに行く習慣があるのですが、式典後、カラオケで当曲を歌えないものかという声が上がりました。これまで、自分の作った曲を何曲か「ON SOUND」様より全国配信して頂いたこともあり、お世話になってきた担当者の方との交渉の結果、配信して頂ける運びとなりました。ただ、配信に際して曲名に「千葉大学医学部」という単語が入っているため、

学校からの使用許諾を受ける必要があるとのこと、学務の方にお伺いしました所、前例がない事なので色々とお手数をおかけしてしまいました。無事中谷学部長の許可を頂くことができました。CDも、自分が普段お世話になっているCDの制作会社の方にお願

いし、完成致しました。表ジャケットは50周年記念式典での集合写真を、歌詞カードの写真は同級の部員の青墳君が撮ってくれたものを採用させて頂き、デザインでは多くの後輩たちに手伝ってもらいました。曲の内容ですが、声の高さや曲調は、年配・若い先生方、男性・女性問わずに歌って頂けるようなものを目指しました。また、歌詞は自分が様々なOBの先生とお話ししてきた中で感じてきたことをテーマに書きました。イメージしたストーリーは以下の通りです。

がっている。時は流れても、ふとした事をきっかけに、思い出の日々が蘇る。心の中にはいつまでもかけがえない仲間がいる。そんな心の帰すべき場所としてスキー部が存在している。

配信を受けて、部員たちはもちろんのこと、部長の松原教授を初めとする多くのOBの先生も喜んでくださいました。また、普段から懇意にして頂いている白澤教授からも「学内で結構話題になってるよ」とお言葉を頂き、照れくさい反面、とても嬉しく思います。スキーは冬から春にかけて本格的なシーズンを迎えますが、私自身、恥ずかしながら在部中、スキーのシーズンと追試験のシーズンが重なる影響で、合宿を休んでしまうことも多く、競技面においてあまり部に貢献することができなかったと負い目を感じていたので、このような形で少しでも部に貢献することができて、一安心しております。最後になりますが、今回の楽曲の制作やカラオケ配信・CD化は、多くの先生方、大学の職員の方々、カラオケ会社の方々やCD制作会社の方々、そして協力

し応援してくれてきた部員等、極めて多くの方々のご協力のもとに実現したこと。この場を借りまして、心より御礼申しあげます。みのはな同窓会の皆さまも、宜しければカラオケにお立ち寄りの際は、お探しになつてみてください。(アーティスト名は「千葉大学医学部スキー部」、曲名は「千葉大学医学部スキー部50周年記念曲」で登録されております。)

千葉大学医学部スキー部 50周年記念曲

作詞・作曲・編曲 清水規宏

今年も冬が来て 思い出すのはあの日の雪景色  
時は流れてゆく 積もった想いが溢れ出す

君がいてくれたから ここまで来れたよ

亥鼻から滑り出した 輝きを胸に  
支え合って 涙流した かけがえない日々  
僕らの心にいつでも 変わらずそこにある



千葉大学医学部スキー部  
50周年記念CD

CDジャケット

ことし も ふゆがきて おもいだすのは あのはなのゆきげしき  
ときはながれてゆく つもったおもいがあふれだすきみがいてくれたから ここまでこれたよ  
はなからすべりだしたかがやきをむねにききえあつてなみだながしたかがけがえなひびくらのこころにいつでもかわら

**卒後20周年記念 平成4年クラス会**  
日時 平成24年7月7日(土) 18時から  
場所 オリエンタルホテル東京ベイ (京葉線新浦安駅直結) 1階宴会場「マーガレット」  
電話 047-350-8111  
連絡先 先端応用外科学 川平 洋

**卒後50周年記念 ゐのはな37会**  
日時 平成24年7月7日(土) 12時45分から  
場所 帝国ホテル東京 本館 3階「雅の間」  
電話 03-3504-1111  
連絡先 杉岡昌明(幹事)  
電話 047-485-9637  
e-Mail sugokaka@sonata.pal.or.jp

# 研修プログラム

## 消化器内科における臨床研修

千葉大学大学院医学研究科腫瘍内科学

教授 横須賀 收 (昭50)

はじめに

消化器内科は、千葉大学医学部の前身である千葉医科大学時代からの長い伝統を有する、日本有数の消化器診療科の一つである。これまで、肝がんの病期分類の提唱、胃X線二重造影法、経皮経肝胆道造影法、肝がんのエタノール療法の開発、肝疾患の病態解析と治療などで数々の実績を挙げている。石川、三輪、奥田、大藤、税所教授が消化器内科を主宰して来られたが、現在は横須賀が責任者となっている。平成16年4月の国立大学法人化にともない旧第一内科および旧第二内科の消化器グループが統合し、現在に至っている。肝胆膵疾患、上部・下部消化管疾患の領域において昨年は年間60編以上の英文論文を発表するなど、現在も活発な診療・研究活動を行っている。

肝炎に関しては、C型肝炎治療ではインターフェロンとリビリンの併用療法に加え、テラプレビルを

よる診断法の改善や新しい抗がん治療法の開発にも参加し、平均生存期間の大幅な延長がみられている。

上部消化管では、カプセル内視鏡や偏光光学を応用したFICEを取り入れた内視鏡診断技術の改善、胃の内視鏡的粘膜下切除術(ESD)など最先端の技術を積極的に取り入れている。下部消化管では炎症性腸疾患の治療に、インフリキシマブや顆粒球除去療法など新たな免疫抑制治療を行っている。また、EMRやESDも行っている。

また、これらの臨床成績を支える基礎研究についても、熱意をもって取り組んでおり、学会においてもシンポジウム・パネル・ワークショップで、発表の場を与えられている。

また、胆膵疾患では、胆管結石では伝統に培われた内視鏡技術力を生かした碎石術やダブルバルーンカテとの組み合わせにより、これまで困難と考えられてきた胃全摘手術後の結石をも除去している。さらに、近年増加傾向にある、自己免疫性膵炎や膵癌の治療にも力を入れ、超音波内視鏡に

よる診断法の改善や新しい抗がん治療法の開発にも参加し、平均生存期間の大幅な延長がみられている。上部消化管では、カプセル内視鏡や偏光光学を応用したFICEを取り入れた内視鏡診断技術の改善、胃の内視鏡的粘膜下切除術(ESD)など最先端の技術を積極的に取り入れている。下部消化管では炎症性腸疾患の治療に、インフリキシマブや顆粒球除去療法など新たな免疫抑制治療を行っている。また、EMRやESDも行っている。

上記外来患者を割り振り、診療に従事している。患者分布は千葉県を中心として首都圏全域に及んでいる。

平成22年度の入院患者の累計は17,250人で、平均在院日数は13.6日であった。対象疾患は消化器疾患全般にわたる。

### 2. 教育

(1) 卒前教育(ユニット講義、臨床実習、クリニカルクラークシップ)

医学部教育において消化器内科の教育を担当している。3・4年次における臨床病態治療学では、症候学・診断学ユニット講義で各2時間、4年次の消化器・栄養ユニット講義で15時間指導を行っている。同じく4年次の臨床チュートリアルでは消化器を担当、臨床入門では入院患者面接を担当している。5年次におけるベッドサイドラーニングでは、ほぼ通年にわたり消化器内科入院患者を学生に割り振り、指導教官によるマンツーマン方式での実習を行い、6年次におけるクリニカルクラークシップにも講師の指導の下、マンツーマン方式で教室員が指導にあたっている。なるべく、学生に多くの体験をさせ、また疾病の成り立ちを理解させたいと考えている。また、全学の学生を対象に普遍教育を、薬学部学生を対象とした消化器疾患の講義を担当している。

た、全学の学生を対象に普遍教育を、薬学部学生を対象とした消化器疾患の講義を担当している。

(2) 卒業・生涯教育(初期/後期研修医)

平成22年度は初期(1、2年目)研修医10人が消化器内科のローテイトを希望した。平成23年度後期研修医は6人入局し、うち3名ずつが半年間の学内・学外での研修を行った。また平成24年度は後期研修医6人を含む8名が新たに入局予定である。

## 呼吸器外科における臨床研修

千葉大学大学院医学研究科腫瘍病態外科学

教授 吉野 一郎 (九大・昭62)

かぎり体験できるよう配慮している。学会での発表や症例報告を中心とした論文執筆の指導も併せて行っている。

当科に求められた多くの方が、内科学会、消化器病学会、肝臓学会、超音波学会、内視鏡学会の専門医を取得

し、またほぼ全員が医学博士の学位を取得していることが自慢である。

当科では向学心あふれる方には、大学院生、委託研究生、登録研修医などとして広く門戸を開放しており、希望の方は医局長(神田)まで御連絡いただきたい。

呼吸器外科における診療の対象臓器は頸胸境界領域から横隔膜までのうち心臓・大血管・食道・脊椎・脊髄をのぞくすべての臓器を対象とし、対象疾患は肺癌・縦隔腫瘍・胸膜中皮腫・胸壁腫瘍などの胸部悪性腫瘍、肺膿瘍・膿胸・気管支拡張症・非結核性抗酸菌症などの炎症性疾患、肺動静脈・肺分画症などの先天性肺疾患、気管・気管支の腫瘍・異物、胸部外傷、等々、とかなり広い範囲を網羅しています。欧米では、General Thoracic Surgeryと称されているとおり、胸部臓器の統合的な解剖、機能に精通し、呼吸・気道管理に長け、specialな手術をこなす、のが呼吸器外科医です。呼吸器外科専門医は外

科専門医を取得したのちに更に修練し、最短で卒業後7年目にチャレンジできる資格です(他には消化器外科、心臓血管外科、小児外科の専門医があります)。従ってまずは外科専門医取得のために外科全般の経験を積むことが必要です。外科系へ進む希望を持っている初期研修医の先生方は、最初からこの外科専門医を目指す積極的に外科系診療科をローテイトすることが専門医取得の最短コースです。幸い呼吸器外科を希望して来られる初期研修医の方はほとんど外科志望が多く、たとえ1ヶ月でも我々の仲間として扱います。胸部臓器の解剖、呼吸管理、呼吸器外科的疾患の理解、気管支鏡、胸腔ドレナージ、

呼吸器外科専門医は外

穿孔などを中心に修練していただきますが、2ヶ月以上在籍すると開胸などの手技も経験できます。

呼吸器外科を目指す後期研修医(原則2年)の先生方には、入局後、院内の各外科診療科や関連病院の外科をローテートしてもらい、

外科専門医に必須の消化器、心臓血管、小児、乳腺・内分泌の外科を修練していただきます。もちろんこの期間には呼吸器外科もたくさん経験していただきます。

習熟度に応じて主治医、術者を経験させますが、1年目には気胸根治術、肺部分切除が中心で、2年目には肺葉切除など難度の高い手術を段階的に修練してもらっています。呼吸器外科専門医の取得にはこのような手術経験だけではなく研究業績も求められていますので、後期研修終了後はベッドフリーの期間を数年設けて研究できるようにしています。希望者には合わせて博士号も取得できるように大学院入学を勧めています。結局、卒後10年目ごろには呼吸器外科専門医を取得でき、その過程で学位も取得しているのが現状です。後期研修を終了してから入局される方には個々の経験内容を考慮し、呼吸器外科専門医

取得のためのキャリアパスを考へることにしています。千葉大学呼吸器外科では、習う側も教える側も、医局も関連病院もすべてが、互いの関係で発展できるような日々皆で努力しています。学生、初期研修医の皆さん、また後期研修を修了した皆さん、

**独立行政法人国立病院機構 下志津病院**

末石 眞 (昭48)

下志津病院はJR快速も停車する四街道駅のすぐ前で、歩いて5分ほどの交通便利なところにあります。古くは軍の病院であり、戦争後に国立病院となり、その後、独立行政法人国立病院機構に移行しています。駅前でありますが、敷地が広く、外来や各病棟がゆつたり分散して緑のなかに広がっています。一般の病院と異なり、外来以外に5棟の病棟が別々になっており、はじめての患者さんはもちろん、なかには職員でも迷うことがあるほどです。440床の病院ですが、120床は重症心身障害児者の病棟、120床が筋ジストロフィーなど神経筋疾患患者さんが長期に入院している慢性疾患の病棟であり、残りの200床が

さん、呼吸器外科に興味があれば一度ご相談ください。末筆ですが、紙面をさいて機会を与えていただいた編集委員の先生方に御礼申し上げます。吉野のメールアドレス: iyoshino@faculty.chiba-u.jp

一般的な病棟です。国立病院機構は全国に、144病院がありますが、全体がまとまって、臨床研究、治験を積極的に行なっています。当院では一般的医療では内科、小児科、外科、整形外科、神経内科、リウマチ科、アレルギー科、麻酔科、小児神経内科などと充実していますが、関節リウマチ、膠原病、小児喘息、食物アレルギーなどの患者さんが比較的多く診療を受けています。これら疾患にたいして、院内患者勉強会も行ない、この会は当院患者さん以外でもどなたでも参加を募っています。重症心身障害児は出生時の問題や先天性代謝疾患などが原因でおこります。代謝異常の一部では食事療法による

予防があり、尿有機酸測定などで診断しています。筋ジストロフィーでは、他施設と共同し遺伝子医療を始める準備中です。これらの疾患患者さんは若年者が主であり長期に入院が必要で、病院と隣接して四街道特別支援学校があり、多くの患者さんが病棟からあるいは在宅から通学しています。また近頃は在宅での介護も多く行なわれるようになっていきますので、家族などの指導も含め、短期入院や専門外来などその支援にも力を入れております。

千葉大学卒のスタッフでは私以外では順に、一木昇(外科、昭48)、渡辺博子(小児科、昭49)、山本重則(小児科、昭56)、杉山隆夫(内科、昭56)、香村玲子(麻酔科、昭52)、富澤稔(消化器、昭62)、長谷川留魅子(外科、平2)、根津櫻子(小児科、平3)、石原あゆみ(小児科、平3)、佐藤一樹(小児科、平4)、鈴木修一(小児科、平9)、鈴木由美(小児科、平12)です。これらのスタッフ、他大学出身者も含め、アットホームな医局運営が行なわれ、各科



の先生方と患者さんの検討も気軽に行ない、ゆつたりとした中でも、専門の医療を行なっています。また、地域医師会との病診連携もカンファレンス等を行ない病院が運営されています。

**研修医だより**

**後期研修1年を終えて**

千葉大学大学院医学部 升田 貴仁 (平21)



常に悩みました。その中で、大学での後期研修を振り返って「大学を選択して良かった!」と思った点を書いていきたいと思っています。

1. 自分の目標を明確に思い描きやすい。一緒に働く数学年上の先生方は自分がこれから経験するであろう道のりを歩んできた方々であり、外の病院でどのようにスキルアップを目指していけばよいのかをイメージしやすいと思います。

2. 珍しい症例や難しい症例など、市中病院では滅多にみることの出来ない症例を頻回にみる事が出来る。もちろん、自分で執刀することはありませんし、市中病院と比較して手技を経験する機会も限られてい

千葉大学大学院臓器制御外科学入局1年目となり。今回、千葉大学医学部附属病院での後期研修の体験談ということで書くかと思いましたが、私は千葉大学を卒業し、初期研修は、1年目は千葉大学医学部附属病院、2年目は成田赤十字病院にて研修を行いました。どちらの病院での研修もすばらしく、初期研修を終えるにあたり、大学病院に戻り入局し後期研修をするのか、市中病院で後期研修をするのかで非

ここ数年で、外科、小児科、重症心身障害児の各病棟が建て替えられ、綺麗な病棟になっており、今後、残った内科病棟と外来、検査科などの建物も更新したいと考えています。

ると思います。しかし、難しい手術を短期間に頻回にみることで目が養われます。

3. 設備が充実している。週2回の術前症例検討会では新人局員がプレゼンテーションを行います。その前には病棟グループでの症例検討会を行います。それまでに一般的な病歴や画像検査などをまとめなければなりません。画像の読影を行うことは自分の力になります。また、1.に関連することですが、まだまだ読みの浅い自分に、上の先生方は根気強く教えてくれます。

4. 同期が多い。市中病院で同期が多いと手術、手技の奪い合いになるでしょう。しかし、大学病院ではそのような争いは起こりません。そもそも機会がほぼ無いからです。そして、同期の中で連帯感が生まれません。切磋琢磨し、互いに励まし合い、成長する上で大切な存在です。同期は宝だと思います。もちろん、他科の同期とも知り合うこともでき、今後何か困ったときに相談するコネもできます。

今、約1年間の後期研修を振り返ると辛いことの方が多かったような気もします。しかし、その分だけ、成長することが出来、また、

自分のキャパシティを引き上げることが出来たような気がします。外科の道は辛く険しいかもしれませんが、その先にはそれを補って余りあるものが待ち受けていると信じています。伝統ある当科ではその道のりを歩んできた諸先生方のサポートを受けることができました。同期と切磋琢磨することができたりとすばらしい環境

が用意されています。外科に興味のある方は是非当科に入局し、一緒に頑張ってください！見学などもお待ちしています!!

駄文ながら、最後まで読んでくださった皆様どうもありがとうございました。末筆ながら皆様のこれからのご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

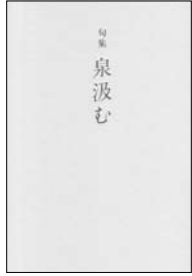
### 同窓会員著書の紹介

三枝一雄(昭32)・三枝ふみ代 著  
句集「泉波む」



三枝一雄

増田 善昭(昭35)



この度、三枝かずを、ふみ代御夫妻は、金婚を記念して合同句集「泉波む」を刊行なされた。句集名はホトトギス主宰の稲畑汀子先生より戴いたお祝いの序句「さしのべし手に尽きるなき泉波む」による。お二人はこれまで多くの句集を出しているが、結婚後五十年

を記念する今回の夫婦句集の出版は、御夫妻ともに進まれた長い俳句の道のりを振り返るときその喜びもひとしおであるに違いない。私は学生の頃より法医学教授加賀谷凡秋先生の主宰するやはぎ俳句会で兄弟子としてのかずを氏の御指導をいただき、また、奥様とは同会でほぼ同時に俳句を学んだものであり、長年のお二人の俳句に対する精進を知っているだけに、このたびのご夫妻の「泉波む」の上梓には心からお祝いを申

し上げる。

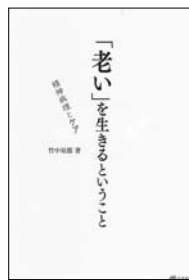
さて、かずを氏の育った第一外科医局には教室訓として「獅鷹鷹目行以女手」の額が掲げられているが、その教えは医師として三枝病院長、県おのほな会長、第一外科同門会長などの御要職にあられる氏の心構えのみならず俳句にも大きな影響を与えているようである。氏はできるだけ簡素に物を見つめ、大胆に鋭く句を構成する。「二羽去り二羽去りどつと去る目白」はその見事な例であろう。また、「猫に椅子取られ燗炉を離れけり」にはものに対する優しさを忘れずに平明に気持ちるを詠み込んでいる自分がある。「掃かずおくことももてなし庭落葉」は挨拶の句であるが、人と人の関係を大事にする氏の俳人ならではの気遣いに満ちた句である。

ふみ代様は奥様としてお忙しいかすを氏の日常生活を助けられ、現在ある、かずを氏の御人望の大半は奥様の内助の功にあると言っよう。句もそのお人柄を現している。「枯れてゆく萩に明るさとどめをり」は自宅のお庭の萩を詠んだものであるが、一木一草にまで気を使われて最後まで世話している優しさのこもった句である。お二人はま

ことに仲睦まじい御夫妻であり、俳句の集まりにはもちろん種々の会合にさいしお酒を愛するかずを氏の代わりに奥様が車を運転してゆくこともしばしばである。「夫と歩す風爽やかなシヤンゼリゼ」奥様の句である。いつまでもお二人揃って俳句を楽しんで頂きたい。

### 「老い」を生きるといふこと

竹中星郎(昭41) 著  
中央法規出版 定価二、一〇〇円(税込)  
長尾 佳子(昭34)



ひとつとが未だ経験したことのない「長寿社会」、それは「恩恵を享受」する一方で、その多様な困難に対応する「幅広い支援」への準備を否応なく迫られる事態でもある。

本書には、練達の精神科医である著者の、老年期精神科医療への長年の経験と造詣が余すところなく披歴され、医療・介護に関わる専門職や家族に向けて、「老い」に対峙する場合の様々な状態を解き明かすメッセージが丁寧な綴られており、個別性から人間の病理の深淵までを垣間見ることができ、読後はその内容に読者の心にも感動を覚える。

別離、死別、離郷、病臥など、厳しい「老いの現実」は個々の高齢者にとって、人間関係や生活状況と相関し、心身の平衡の脆さも相まって「多様」である。これらを「適応」や「孤独・孤立」の視点から説き起す第1章から、介護する家族も「自分らしく生きる」ために家族をサポートするためのシステムは如何にあるべきかの最終章まで、整然と構築された全9章から成る。

本書で特筆すべきは、各章の記述を網羅すると「老年期の性格・人格」「認知症」「せん妄」「精神症状や異常行動」など、老年精神医学の全貌が展開されるといふ「類稀な教科書」でもあること、そして、事例Aから事例Mまでの具体例が各章に配置され、著者が接した実在のお年寄りの姿を通して見つめつつ、読者への「問

題の核心に迫る理解の促し方」である。

介護保険の施行で実現したかに見えた「介護の社会化」も、アセスメントとマニユアル化の独り歩きとなり、介護を受ける「そのひと」抜きに周辺事情の問題解決にのみ走る傾向は否定できない。ケアとは「老い」を生き続ける高齢者の、脆弱化した「暮らし」を支える営みである、と著者は位置づけるが、ひととひととの関わりが柱であるべきケアが、サービスとして商品化され、要介護度で分断され、介護業界での共通言語で語られ処理されて終わり、個別のライフスタイルや、さまざまな家族の思いは汲み取られ難い。

著者は、精神医学的認識源のひとつである「精神病理学」の手法を、老年期に避けられない脳疾患にも用いて、欠落症状や障害の陰に見過ごされる老年期の心性を、生活人の姿として捉えなおし、人間的な眼差しで読み解いてみせ、介護現場への警鐘ともする。著者の数多い著作の中の、格調は高いが説得力も備えた集大成として世に出た最新の1冊である。

この書を座右に置き、高齢者に関わる全ての人々が、

是非じっくり読んで欲しい。高齢者に向き合うセンスと力量を磨き、更に質の高い

### もしもあなたががんになったら

大岩孝司(昭47) 著  
晩聲社 定価一、四〇〇円(税抜)  
電子書籍 アップルストア



「人は状況が理解できない中で、意に添わないこと、納得できないことに対応を迫られると、とても弱いですが、逆に状況がわかり、納得できれば、かなりの辛い状況にも耐えられ、自分を保てます。」この一文は、紹介する書籍にあるものです。特にがんに限ってのお話してはありませぬよ。そうなのです。「もしもあなたが○○○になったら」として、○○○に適語を当てはめ、読んでいただけたらとができるのです。即ち、平日頃心掛けるべきことが満載の良書です。勿論、がんという視点から、医療関係者という立場から、等々、本書を手にとるべき該当者は多数おりま

医療・介護の提供者となるために。

鈴木 信夫(昭47)

しょう。しかし、そのような人々に特定せず、是非、健康な若人にも薦めるべき貴重な指南書なのです。では、生命科学という視点からも本書をみてみると、「死に際しても、できるだけ苦しい思いをしないような、穏やかに命を終えることができるような仕掛けがあり、そのような仕掛けが、一方、医療人への問いかけは多数あります。例えば、次のメッセージです。「緩和ケアは人間復権の医療です。がん患者の最後の砦です。しかし、緩和ケアは決して独立して存在する医療ではなく、全ての医療の根幹をなすものです。」いずれにせよ、緩和ケアに一石を投じている画期的な書物です。究極、がん末期の人に寄り添うにはどのような身ががん末期となった場合を考えつつ、本書を手にと

つてみましょう。本書のエピソードを開いた途端に、引き込まれること必定です。なお、著者の医院である

「さくさくへ坂通り診療所」における診療理念をオンライン会報で紹介してありますが、その映像で出てくる建築物は、千葉市都市文化賞受賞作です。一方、著者の緩和ケアに関わる論点については、次のホームページからもご覧いただけます。厚生労働省「がん対策推進協議会審議会資料」第25回意見聴取資料5。さらに、千葉県がん対策審議会「委員申請書からもご覧いただけます。」

## 雑文雑談 八州廻りの話

石出猛史(昭52)

江戸幕府で財政を担当したのが勘定奉行であり、その下で天領の年貢の徴収・治安維持にあたったのは代官である。関東には小大名領・旗本領が多く治安が行届兼ねるといことから、文化2年(1805)評定所組頭羽田藤左衛門の建言により、その治安の任を担う関東取締出役(俗に八州廻り以下「出役」)が設けられ、代官の下僚である手附・手代から選任された。当初8名であったが幕末には15、16名に増員された。天領だけではなく、旗本領・大名領・寺社領にも警察権を行使した。

手附は小普請組(無役)の小禄の幕臣から任命されたが、手代は代官の雇で必ずしも士分の出身とは限らなかった。職務内容は同じでできる方が取締を勤めた。出役の活動を支えるために組合村が結成され、50、60カ村毎に手先道案内(岡引)が1、3名任せられ、出役の手下として働いた。関東八カ国を管轄したので八州廻りである。用が多かったのは武州(武蔵 東京・埼玉)

を置いた。当初187名を数えたが、隊士のうち士分は6名のみで大多数は九十九里の農・漁民の次・三男、無宿者などであり、近隣の地主・富裕層に金子・米穀・刀剣などを強請り、周辺の貧民に分配したり訴訟なども扱った。この活動が耳に入ると、幕府は小関と東金を領地とする福島藩、佐倉藩・多古藩・一宮藩・出役に討伐を命じた。

翌元治元年(1864)正月17日暁大村屋の本隊への攻撃は福島藩と出役の隊があたった。正面からの攻撃は福島藩江戸屋敷詰馬淵清助・保安太夫が指揮して、藩士15名・足軽10名・東金町銃兵隊13名によつて行われた。出役馬場俊蔵と渡辺慎次郎は、手先道案内の一隊を率いて大村屋裏手の作田川岸に陣取った。千住の徳兵衛・越ヶ谷の布五郎などの名がみられ、両総のみならず武州の道案内も動員されたのが判る。

2月10日より、江戸から下向した代官中山誠一郎、評定所留役畑兼太郎・石原順之助、同書役3名、及び馬場俊蔵・渡辺慎次郎ら出役9名による浪士の吟味が始まった。事件関係者として近隣から呼び出された者3千人を数えたという。土地の有力者も多かったが、真忠組に同情的であったことから、江戸へ送られた者もいたという。3月15日には吟味もほぼ終わり、この間出役の御用状の往復は凡60通に及んだ。江戸の評定所への報告と復命であろう。

28日になり、処刑に必要な道具を29日の明け方までに、牢屋に収めるようにという「達」が出された。28日のうちに江戸から判決文が届いたのであろう。29日朝東金の西福寺の本陣へ、三浦帯刀以下10名の浪士が引き出され斬首晒首の判決を言い渡された。モッコに乗せられ紙幟を立てて東金の町を引き廻された後、田間村辻堂に設けられた刑場で処刑された。頭部は小関新開で梟首に付された。

首斬役と仕置場の人夫は田間村と近隣の村の番人50人斗が勤めた。東金新宿の番人は斬るのがうまくいったという。番人は幣牛馬の解体なども荷っていたと考えられるが、罪人の斬首を行うというのは異例であっただろう。この処刑には評定所留役2名、馬場俊蔵以下出役5名、手先道案内舎員、東金町名主組頭一同が立ち合った。この一件で最後まで一貫して関わった出役が馬場俊蔵である。処刑当日は、東金近隣の住民も知らないうちから、10キロ・20キロ遠方の住民が処刑見物に押寄せたという。

吟味にあたった代官中山誠一郎は、天保15年(1844)8月6日の飯岡助五郎と笹川繁蔵の喧嘩があった当時出役を勤めていた。評判の芳しくない出役の一人に挙げられている。文久3年(1863)12月勘定役から代官に任命された。『武鑑』に支配地は記載されていない。従って時期を考慮すると、真忠組対策官として起用されたのであろう。慶應4年(1868)の幕府の瓦解まで代官を勤めた。新政府下でどのような後半生を送ったものか。

## 静岡るのほな会 平成23年12月 第20号

### 目次

巻頭言	佐藤 通	1
支部総会報告 (平成23年度)		
支部総会報告		2
庶務報告		3
会計報告		3
監査報告		3
総会写真		4
懇親会 (平成23年度)		
スナップ写真		5
支部総会報告 (平成22年度)		
支部総会報告		6
庶務報告		7
会計報告		7
監査報告		7
総会写真		8
特集 同窓のいる病院の紹介		
沼津市立病院	後藤信昭	9
中伊豆リハビリテーションセンター	佐々木健身	9
医療法人社団英志会渡辺病院	渡邊英一郎	10
清水厚生病院の現状	中田 恒	11
浜松医療センター	笠松紀雄	12
隼隷浜松病院	堺 常雄	13
掲示板		14
編集後記		14

第20号

### るのほな静岡

発行: 静岡るのほな会  
2023年12月15日  
第20号

編集: るのほな静岡  
編集委員会

発行: 静岡るのほな会  
2023年12月15日  
第20号

編集: るのほな静岡  
編集委員会

#### 最近思うこと

伊藤 一徳

静岡るのほな会が発行する『るのほな静岡』は、今年で第20号を迎えます。この間、私は何度かこの会報を読み、その内容の充実と、編集者の熱意に感銘を受けてきました。特に、この会報が、単なる同窓会の連絡ツールにとどまらず、静岡の医療界や社会情勢について、深く掘り下げた記事を掲載している点に、大変興味をもちました。

また、この会報が、静岡の医療界や社会情勢について、深く掘り下げた記事を掲載している点に、大変興味をもちました。特に、この会報が、単なる同窓会の連絡ツールにとどまらず、静岡の医療界や社会情勢について、深く掘り下げた記事を掲載している点に、大変興味をもちました。

## 群馬るのほな会報 平成23年 第9号

群馬るのほな会 第9号

— 目 次 —

23年度 群馬るのほな会総会	8
深尾立先生 講演要旨	10
新年随想	12
あるリハビリ医の1日	14
モチはモチ屋	16
講談 曾呂利新左衛門	17
裸 婦	20
ホールインワン	21
俳句と私	25
前橋刑務所便り(三)	28
北八ヶ岳テボ山行記	30
会計報告	33
会員名簿	34
会 則	37
編集後記	38

## 群馬るのほな会報

### 第 9 号

群馬るのほな会

# 会員から

## 「臨床から行政へ」 公害被害担当時を振り返って

元労働省労働基準局安全衛生部長  
日本赤十字社参与  
草 刈 隆 (昭35)

「課長！課長は政府に反逆するのですか!!」労働省(当時)の課長として、働く人の健康を守るための施策変更を求めて、最も手強いカウンターパートの経済官庁の課長のまえに、説明を終えた資料を置き、一礼して部屋を出ようとした私の背中中に投げかけられた鋭い声でした。振り返ると全員がこつちを凝視しています。これからの激しい論争を覚悟しつつ、その庁舎を出、厚生・労働・環境等の合同庁舎の中にある課の自席に戻りました。時をおかず、関連する事業者団体や殆どの省庁からの非難や攻撃の声が上がりました。そうこうする裡に上司からお呼びがあり、政府として一旦決めたことを覆す動きは止めないようにとの言葉を受け、続いて「業務命令です」と付け加えがありました。各方面からの強い力が働き、省としての動きを制せざるを得なかったのでしょうか、

た交渉の場では、「それでもお前は人間か!」のお叱りは序の口、書く勇氣も出ない怒りを浴びました。被害を受けた方がたのことを考えると、当然のこと、ジツと耐え、原因企業から補償を引き出す算段や、関連する省庁、県との交渉に当たっている人々の成果を期待するだけの立場は、今考えでも背筋が凍ります。その地域で生活していたことでの健康不安を受け止める仕組みの構想を打診しましたが一蹴され、胎児期からの認定基準だけは、専門の学者と課員の努力で纏まりました。それでも別の専門学者の知恵?を借りた強大な関係省からの鑑別不能のケースを持ち出されましたが、弱小な庁(当時)が強引に押し切ってしまったのは、悲惨な実例を目の当たりにしていたからです。ほとんどが積年の難問題

を課せられていた行政の体験のうち、二つだけを文章にしてみました。外からの理解は得られる筈もない苦渋辛酸の立場であった時も、私をひとりにはせず支えてくれた人々がいたことは、公害被害を支援する人々も含め日本の社会、日本人の心の資質というものを考えざるを得ません。その中には、あのはな同窓の方々の、学者・研究者としてのご指導を賜ったことがありました。2011.3.11の際、孤立した集落からヘリコプターでやつとの思いで救出されてきた老婦人が降りるなり、カメラに向かって「有難うございました。お世話になりました。」と深々と頭を下げていたシーンが目に残っています。日本は再興する!私もその一員として、これからも出来る限りの努力を重ねていくつもりです。

「徳島病院が左遷病院?」  
そのとき私にはこの意味を理解する事ができなかった。徳島病院小児科は筋ジストロフィー医療を専門とし、一般小児科はやらないというちよつと特異な小児科であった。しかし私に違和感はなく、いや筋ジストロフィー医療にはむしろ懐かしさを感じていた。

時が移り、その物資から健康被害が生じていたことが明らかになった頃、その方から電話があり、閉じ込められていた記憶の瓦礫の中から甦ってきた一端を、冒頭から述べてきたものです。

振り返ってみると、臨床、労働衛生の現場を経て40歳過ぎてから行政に飛び込んだ故かと疑いたくなる人事配置のもと、当時の食品が原因の健康被害については、二つも担当しました。一つは原因物質の処理、

「先生の今回の人事は決して左遷ではありませんから。」  
国立療養所徳島病院(現国立病院機構徳島病院)へ

では診断がついた時点で終了、以後診てくれる施設はなかった。  
政策医療の(筋萎縮症病棟)の成果はすぐにはあらわれ、呼吸器感染症管理によりデュシエンヌ型筋ジストロフィーの平均寿命は二十歳近くまで延長した。次に換気不全対策として人工呼吸が導入され、さらに平成に入り非侵襲的陽圧人工呼吸が紹介されてから飛躍的に数が増えた。私が徳島病院に赴任したのはちょうどそんな頃であった。

彼は、健康被害の認定業務でした。前任者が無気力になってしまい、その直属上司も入院中という状況の中、被害支援団体の方々を交えた交渉の場では、「それでもお前は人間か!」のお叱りは序の口、書く勇氣も出ない怒りを浴びました。被害を受けた方がたのことを考えると、当然のこと、ジツと耐え、原因企業から補償を引き出す算段や、関連する省庁、県との交渉に当たっている人々の成果を期待するだけの立場は、今考えでも背筋が凍ります。その地域で生活していたことでの健康不安を受け止める仕組みの構想を打診しましたが一蹴され、胎児期からの認定基準だけは、専門の学者と課員の努力で纏まりました。それでも別の専門学者の知恵?を借りた強大な関係省からの鑑別不能のケースを持ち出されましたが、弱小な庁(当時)が強引に押し切ってしまったのは、悲惨な実例を目の当たりにしていたからです。ほとんどが積年の難問題

「左遷人事?」  
徳島文理大学保健福祉学部  
多田羅 勝義 (昭52)

日本では組織的に筋ジストロフィー医療が始まったのは昭和39年、徳島など全国8か所の国立療養所に専門病棟が設置された。その後施設数は27に増加、筋ジストロフィー医療は政策医療として続けられた。それま

しての取り組みが現在名実ともに終了し、私が取り組んできた筋ジストロフィー医療も一区切りついた。そして今、根治治療をめざした新しい研究班(ホームペー ジCare Cure-MD参照)もスタートした。

一つは原因物質の処理、

筋ジストロフィー医療は約40年間続いた政策医療と

人工呼吸となくとも寝たきりにさせない、さらに在宅人工呼吸という選択肢を用意したかった。在宅人工呼吸に関しては、当初メーカーから「四国だけは勘弁してください。」と言われたことが懐かしい。

当然のことながら根治療法のない疾患、障害とともに生きていかななくてはならないひとは数多く存在する。それに対する医療は敗北ではないし、そのような医療に携わることが左遷であるはずがない、と18年間を振り返りはっきりと断言できる。そのことを、特に若い先生方に知っていただきたい、私の経歴を紹介した。

千葉 蓮 池

# 丸万壽司

千葉市中央区中央 3-7-11 〒260-0013  
TEL.043(222)3414 FAX.043(225)5335  
http://www.maruman-sushi.com/ Eメール:mail@maruman-sushi.com

ただいま!

「ただ今帰りました」と、というには遅きに失しますが、千葉を1968年5月に去って、昨年43年ぶりに千葉に帰って参りました。1951年(昭和26年)初入学以来、千葉大学に4回入学、一度だけ卒業(昭33医学部)。

高野 光司 (昭33)

も明るく過ごせるように改修、死を迎える寝室も準備しました。しかし幼いころ、若い頃の友人たちとの交友がほしくてか、帰国してしまいました。どうぞよろしくお願いします。

評価点の変更、合格取り消しの意見を出すことも可能です。一言で言えば、ゲッティンゲン大学教授としての教育、研究の義務から解放されましたが、教授として「口を出す」権利などは保留されています。

がデモをする、大学評議員会ははじめ教官その他もこれに同調するといふので、警官一万人が警備に着くといふ大騒ぎでした。それでも外国からの賓客をもてなし、井出先生も伝統あるアウラの壇上からドイツ語で挨拶されました。

解剖研に留学中。この頃同時に三人の千葉大学助手がゲッティンゲンに留学してました。別に、ボン大学だったと記憶していますが、同時期にフンボルト留学生として病理から故寺尾清助手(後真菌研教授、昭32)も在独中でした。

1でお話になった後、トムセン所長のお宅に私夫妻共々招待されましたが、この家がかつて大数学者ヒルベルトの家でした。また、桑田先生のプランク通りの宿は、物理学者寺田寅彦がこれも日露戦争のころ下宿した家の数軒先でした(寅彦の「ドイツ日記」参照)。

もお供して先生をお訪ねしましたが、私たちが部屋に着いたとき、イスラエル・エジプト戦争が始まったニュースが入ったところで、グレース教授は挨拶もそこそこで大変興奮されていたことが印象的でした。教授はユダヤ人で、クロイツフェルトの義兄弟です。クロイツフェルトとはC. J. 病的C. の御息息二人で、偶然二人がゲッティンゲンに、兄は内科の大教授(32年卒谷川久留米大名誉教授が70年に訪問。弟のオットーは世界一流の神経生理学者でフルートの名手、彼の弟子ザックマンとネーアは1991年ノーベル賞受賞。ここからは、同輩、後輩の出番ですし、訪問者だけが報告すべきことではありませんが長くなりますので稿を改めます。遅くなりましたがご挨拶申し上げます。





# ○ インタビュー ○

神戸大学大学院医学研究科生理学・  
細胞生物学講座 膜動態学分野教授  
匂坂 敏朗 先生(平7)に伺う



(聞き手)  
千葉大学教育学部教授  
杉田 克生 (昭54)

平成24年1月20日(金)  
神戸大学にて

―近畿のはな同窓会の  
現状について―  
近畿のはな会の歴史は、  
会長  
初代 石田俊孝先生(大11)  
二代 昭和58年より  
藤本輝夫先生(大阪市大  
病理学名誉教授)  
三代 平成17年より  
上田(旧姓・藤原)眞喜  
子先生(現大阪市大病理  
学教授・昭50)  
事務局  
初代  
宮野安太郎先生(大14)  
二代 昭和60年より  
石川正士先生(昭32)  
三代 平成17年より  
林良輔先生(昭50)  
中尾照逸先生(昭50)

開催状況は多くはないの  
ですが、現在も近畿のはな  
な会として存続しておりま  
す。このインタビューを契  
機に定期的に開催できれば  
と思っております。

―神戸大学について―  
神戸大学では生命科学分  
野の「統合的膜生物学の国  
際教育研究拠点」と、医学  
の「次世代シグナル伝達医  
学の教育研究国際拠点」の  
二つのグローバルCOEを  
取っております。全国でも  
二つ取っている医学部は、  
慶応大学と神戸大学だけ  
です。これは誇れること  
ではないかと思っております。  
実際、学内の研究環境  
の整備や優れた人材の確保  
もでき、研究も活発になっ  
ております。

現在  
中尾照逸先生  
となっておりま

グローバルCOEを医学  
部で二つ取っている要因は、  
高井義美前医学部長のリー  
ダーシップとこれまでの21  
世紀COEの成功があげら  
れます。申請する前には頻  
りに会議を重ね、文章、ポ  
ンチ絵などを何度も綿密に  
練っており、そのような努  
力の結果と思えます。  
「次世代シグナル伝達医学  
の教育研究国際拠点」では、  
クリニカルサイエンティス  
トという臨床医でありなが  
ら研究する医師を育てると

開催状況は多くはないの  
ですが、現在も近畿のはな  
な会として存続しておりま  
す。このインタビューを契  
機に定期的に開催できれば  
と思っております。

―神戸大学について―  
神戸大学では生命科学分  
野の「統合的膜生物学の国  
際教育研究拠点」と、医学  
の「次世代シグナル伝達医  
学の教育研究国際拠点」の  
二つのグローバルCOEを  
取っております。全国でも  
二つ取っている医学部は、  
慶応大学と神戸大学だけ  
です。これは誇れること  
ではないかと思っております。  
実際、学内の研究環境  
の整備や優れた人材の確保  
もでき、研究も活発になっ  
ております。

現在  
中尾照逸先生  
となっておりま

グローバルCOEを医学  
部で二つ取っている要因は、  
高井義美前医学部長のリー  
ダーシップとこれまでの21  
世紀COEの成功があげら  
れます。申請する前には頻  
りに会議を重ね、文章、ポ  
ンチ絵などを何度も綿密に  
練っており、そのような努  
力の結果と思えます。  
「次世代シグナル伝達医学  
の教育研究国際拠点」では、  
クリニカルサイエンティス  
トという臨床医でありなが  
ら研究する医師を育てると

学位をとるものもいます。  
医学部在学中の研究期間も  
博士の学位の研究期間とと  
らえる特徴ある教育で、優  
秀な良い学生が来てくれて  
います。

基礎医学は変わってきてお  
り、人に役立つ基礎から臨  
床への橋渡し研究が推奨さ  
れております。  
神戸大学の近くには大阪  
大学・京都大学があり学生  
の獲得は厳しいですが、神  
戸大学はシグナル伝達のメ  
ッカであり、西塚泰美先生  
からのシグナル伝達の伝統  
があります。この部分をさ  
らに発展させ、シグナル伝  
達を基に病気を診ていくと  
いうことを掲げ、頑張っ  
ております。

教育的な事では、神戸大  
学では基礎配属というもの  
が2年生の後期からありま  
す。長期間(1年から1年  
半)研究に関心を持たせる  
という事では大変有意義な  
ものです。医学教育機関認  
証制度によるカリキュラム  
の見直しの関係で期間の短  
縮等はあるかもしれませんが  
が、今後も続けていきたい  
と思っております。また、神  
戸大学は2年次と3年次編  
入の学士学生がおり、卒業  
までに論文を書いて博士の

基礎医学に進みやすく  
するには―  
私は基礎医学に直接入っ  
たのですが、千葉大学在学  
中に一生懸命実験したり、  
論文を書いたりはなかった  
のですが、大学院でやって  
いくうちに面白いと思いま  
した。やはり先ほどもお話  
したように基礎配属は良  
いと思います。研究室に1  
年間も通っている間に小さ  
な論文を書いてみたり、ピ  
ペットを触ったりしている  
だけでも研究は面白いと思  
うようになってきます。そ  
ういう事が必要だと思いま  
す。臨床研修は義務化され  
ていますが、その後に大学  
院に戻って来て研究するこ  
とは可能なので、早い時期  
に「研究というものがある  
のだ」ということを教えて  
もよいのではないでしょ  
うか。

考の学生が集まってきてい  
ると思います。また1年生  
の時に新医学研究コースと  
いう通年で週1日の研究室  
配属があり、研究室に来る  
頻度は多く、また来やすい  
環境だと思えます。強制で  
はなく選択科目ですが、で  
きるだけ早いうちにそのよ  
うな機会を作つてあげるこ  
とが大事だと思えます。

基礎の研究室は入りづら  
いイメージがありますが、  
気軽に授業が終わった後でも  
良いですから、先生に声を  
かけて研究室に行つてみて  
下さい。私も学部1年の時  
に龍岡穂積先生(昭54)か  
ら電子顕微鏡の写真を撮る  
ことを教わりました。夏休  
みの間だけでしたが、何枚  
も失敗しながらも温かく見  
守っていただき、非常に良  
かったと改めて思います。

―基礎医学研究の  
今後について―  
やはり現在は純粋な生命  
科学の基礎医学は求められ  
ておらず、iPS細胞に代  
表されるように人の役に立  
つ基礎医学が目向いてい  
ます。今まで積み上げてき  
た基礎的な技術をどうやっ  
て現場に還元していくかと  
いう方向の研究にシフトし  
ていっています。研究費を  
とるために、私も純粋な生

命科学ばかりでなく、医学  
に活用でき、病気などに直  
接結びつくようなものをや  
つていかなければと思つて  
います。その意味でも神戸  
大学ではクリニカルサイエ  
ンティストという臨床をや  
りながら基礎もやるという良  
い方向に向かっていると思  
います。日本ではまだ少な  
いですが、基礎と臨床をバ  
ランスよく両方が手を組ん  
で仲良くやっていくことが  
今後の医療の発展につなが  
ると思います。  
しかし、このような医学  
応用研究も重要ですが、純  
粋な生命科学はもっと重要  
で、革新的な方法や技術が  
産まれる可能性があります。  
私は生化学を研究していま  
すが、自分独自の分子やア  
ッセイ系を持つということ  
は、必ず新しい発見に繋が  
ります。ひとつの発見から、  
必ず多くの病気の解明に繋  
がります。現在の世界や日  
本の経済状態を考えると、  
医学応用研究に向かざるを  
得ない状況は理解しますが、  
今一度 純粋な生命科学の  
重要性を見直して欲しいと  
思います。理想や夢が純粋  
な基礎医学研究にはありま  
す。

―基礎医学研究の  
今後について―  
やはり現在は純粋な生命  
科学の基礎医学は求められ  
ておらず、iPS細胞に代  
表されるように人の役に立  
つ基礎医学が目向いてい  
ます。今まで積み上げてき  
た基礎的な技術をどうやっ  
て現場に還元していくかと  
いう方向の研究にシフトし  
ていっています。研究費を  
とるために、私も純粋な生

命科学ばかりでなく、医学  
に活用でき、病気などに直  
接結びつくようなものをや  
つていかなければと思つて  
います。その意味でも神戸  
大学ではクリニカルサイエ  
ンティストという臨床をや  
りながら基礎もやるという良  
い方向に向かっていると思  
います。日本ではまだ少な  
いですが、基礎と臨床をバ  
ランスよく両方が手を組ん  
で仲良くやっていくことが  
今後の医療の発展につなが  
ると思います。  
しかし、このような医学  
応用研究も重要ですが、純  
粋な生命科学はもっと重要  
で、革新的な方法や技術が  
産まれる可能性があります。  
私は生化学を研究していま  
すが、自分独自の分子やア  
ッセイ系を持つということ  
は、必ず新しい発見に繋が  
ります。ひとつの発見から、  
必ず多くの病気の解明に繋  
がります。現在の世界や日  
本の経済状態を考えると、  
医学応用研究に向かざるを  
得ない状況は理解しますが、  
今一度 純粋な生命科学の  
重要性を見直して欲しいと  
思います。理想や夢が純粋  
な基礎医学研究にはありま  
す。

―千葉大学医学部の  
一層の発展を願つて―



このような機会をいただき、千葉大学との繋がりを再認識いたしました。三木隆司先生(昭63)には生化学の授業でこちらに来ていただき千葉大学とつながりがあります。あまり同門とかそういう意識はありませんでした。千葉大学は神戸大学と違って伝統ある学校ですので、同窓会組織がしっかりしていますから、千葉大学の横の繋がりを活用していくことが重要だと思います。

これからは、千葉大学と  
 写真右から  
 前列：石川正士(昭32)、宇佐見暢久(昭31)、匂坂敏朗(平7)、上田(旧姓・藤原)眞喜子(昭50)、玉置哲也(昭38)

—千葉大学での思い出—  
 学生時代は大学に居るかいけないか分からないような学生でした。あまり勉強もせずに好きなことをしていただき有難いと思っています。研究なんて滅相もないという感じでした。それでも現在このような研究を自分が行っているのは何故かと思えます。

—臨床から研究へと—  
 進んだきつかけ—  
 私は臨床研修で小児外科に入り、診た患者さんが神経芽腫という病気で、研修1年目にかかりの患者さん



(聞き手)

千葉大学教育学部教授

杉田 克生(昭54)

が亡くなり本当にインパクトがありました。また当時は、分子生物学の発展で、がんにおける遺伝子異常が次々に同定された時代でした。1年先輩の松永正訓先生が分子生物学をやっておりました、いろいろなお話を聞き、研究をしたいと思うようになったのがきっかけです。大学院に入ってからまた手がけた遺伝子が神経芽腫に関係あるかもしれないというような仕事になり、研究にますます興味を持つようになりました。

—基礎医学に進む卒業生が

—海外留学の意義、その経験で感じられたこと—  
 技術的な面とかサイエンス的な面だけで言えば、サイエンスは日本のレベルはとて高いので、必ずしも外国に行く必要はないと思いますが、語学的な部分で力をつけるという事では大変意義があると思います。

—研究室の紹介—  
 研究室はもともとアメリカでやっていた仕事を引き継いだ形で始まりました。当初のメインプロジェクトは神経栄養因子というタンパクの生理機能を理解することでした。この因子は、神経の発生において神経細胞と標的細胞のコミュニケーションを仲介するような

タンパク質です。神経栄養因子がないと神経は正常に発生しないし、機能もうまく遂行する事が出来ません。多くの神経栄養因子が見つかっていますが、その中でGDNFという神経栄養因子ファミリーの生理機能を主にマウスを使って解析してきました。基本的にはノックアウトを使って、一つの神経栄養因子がなくなるとどういふ細胞が発生に影響を受けるか調べてきました。そのうちにその栄養因子群がたまたま腸管の神経発生や自律神経の発生に非常に大事だという事が明らかになりました。さらにGDNFシグナルの異常がヒルシュブルグ病という腸管神経の病気の発生に関連することが分かってきました。現在では、腸管神経の発生と病理の分子機構の理解をプロジェクトの一つの柱として精力的に研究を進めています。腸管神経は神経堤細胞という細胞からできるので神経堤細胞の病気ともいえます。同様な神経堤細胞の病気として神経芽腫という小児の悪性腫瘍があります。研究室では、神経芽腫の発生機構についても解析を始めています。私のバックグラウンドは小児外科で、ヒルシュブルグ病

後列：中尾照逸(昭50)、浅井利大(平8)、廣瀬徹(平6)、西川和宏(平5)、島正之(昭59)、林良輔(昭50)、福井博行(昭56)

理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター チームリーダー  
 榎本 秀樹 先生(昭63)に伺う  
 平成24年1月20日(金)  
 理化学研究所にて

少なくなっている  
 ことについて—  
 システム的に、臨床と基礎をやるなら臨床をやりたいという学生の方が圧倒的に多いと思いますが、その背景にはその両方が出来る大学や公的機関が無いからだと思えます。留学して知ったのですが、アメリカには、大学の診療科に属しながらも、1年間のうち1ヶ月から2ヶ月のみ病院での臨床をこなし、残りは100%基礎研究に費やせるというポジションがあります。とても羨ましいシステムと感ずていました。基礎ばかりやっていると臨床との接点が見えなくなるし、臨床をずっとやっていくと深い基礎の研究が出来なくなります。そういうカリキュラムや新しいプログラムができていくことが研究者を増やす一つのステップとなり得るのではないかと思います。

—医学生物学サイエンスの主流はどうしても欧米型中心で動いており、その中でいかに日本人らしい特性、緻密さと丁寧さを生かした研究が出来るかどうか。そういう部分は単純に教育だけではなく、文化的な部分で培われていると思うので、研究のどこかで生かしていきたいと思えます。

日常の一步外に出て海外を見てくるのはドラスティックな変化になり、新しい環境で自分をどう生かしていくかという意味では良い体験だと思います。特にマイノリティな人種として生活するという経験は、貴重な視点を与えてくれると思います。私自身はアメリカがとても自分の性格にも合っていたので良かったです。自分の研究室では若い人たちには海外留学を勧めています。

や神経芽腫の患者さんを診た経験もありますので、病気の治療に生かせる成果を得ることが研究の一つの目標でもあります。

<http://www.cdb.riken.jp/ndv/index.html>

—世界へ羽ばたけるような医学研究者を育てるには—

医学部全般として、医学科出身の大学院生が減少しているというのは非常に問題になっていきます。基礎研究に着手する医師を増やすような千葉大学らしいプログラムがあればと思います。例えば、基礎研究と臨床が両立できるアメリカのようなプログラムが導入できれば、若い医師の方々を惹きつけられるのではないのでしょうか。

また、もう一つの取り組みとして疾患研究に興味を持つ理学部の学生も同時に増やしていく必要があると思います。理学部の学生は4回生から研究室に配属され基礎研究に早くから手を染め、根源的な生命現象に興味を持っていきます。一方で、生体の生理や病態に触れる機会に恵まれない。そのため、疾患研究に着手する研究者はあまり多く生まれないように思います。理学部と医学部間に垣根を

超えた交流を持つことで、理学部学生の中にも疾患研究を選択する機会が生まれるのではないのでしょうか。私の研究室には理学部出身の大学院生が2人おります。彼らに一度臨床の現場を見てもらうという目論見から、2年前に吉田英生教授(昭53)にお願いし1週間ほど研修生として受け入れていただいたことがあります。それは非常に貴重な体験になったと思います。学部を超えたオープンなプログラムを作り、興味のある人に門戸を広げる、そういう取り組みをしていくことで、学生のモチベーションも高まるのではないのでしょうか。

優秀な理学部の学生が興味ある研究を展開すれば、視点も広がり、逆に医学部の学生も研究に引きつけるような土壌が培われるのではないかと思います。

—同窓会への希望—

同窓会には疎い方で、このインタビューで神戸大学に句坂先生がいらつしやることを知ったくらいです。インターネットで同窓生が日本全国どんな所にいるのか分かるようなシステムができるか、とても助かると思います。学会に行った時にどこかでお話したい時

インタクトを取ればよいし、そういうものが開設されたら有難いと思います。

**取材後の感想 (杉田)**

神戸大学句坂敏朗先生に、近畿ののはな会の現状、神戸大学と千葉大学の違い、基礎医学研究への勧めや今後、千葉大学医学部やのはな同窓会へ希望することなどを、熱く語っていただきました。理化学研究所

◆◆◆◆◆ クリニク紹介 ◆◆◆◆◆

**森田シャントアミロイド治療クリニック**

森田(石井) 弘之(昭56)

私は卒業後千葉大学泌尿器科に入局し、1994年10月より名古屋に移り、以後透析科医として社会保険中京病院名古屋共立病院に勤務しております。

現在休止中で、もっぱら透析アミロイドーシスの手術をしております。

森田シャントアミロイド治療クリニックという耳慣れない名のクリニックを名古屋で平成20年6月より開業しております。透析患者の根管症候群に代表される関節症とシャントトラブルの日帰り手術クリニックを目指して開業いたしました。シャントの手術は看護婦1人の体制では難しいの

が、透析患者さんの手術は整形の先生も敬遠気味なのでどうか手術件数も確保できております。透析アミロイド症の手術を専門にしているクリニックは珍しいので遠隔地(北海道から沖縄まで)からも患者さんは受診してくれます。透析患者を診ている先生で関節痛の管理に悩まれている先生がいらつしやいましたら是非ご連絡下さい。

中京ののはな会 活動報告

中京ののはな会の活動を報告します。対象は愛知、岐阜、三重在住の千葉大医学部卒業の先生方で、当方で把握している会員数は40人程度です。会長は名古屋市立大学整形外科の名誉教授の松井宣夫先生(昭38)にお願いしております。

毎年、7月か8月の水曜日の夜に総会を開催し、近況報告と千葉大時代の思い出話に花が咲き、旧交を温めております。こちらに在住されている先生で、中京ののはな会の案内のいかな先生はご連絡下さい。

連絡先  
〒460-0022  
名古屋市中区金山2-16-22  
守階ビル8F  
森田シャントアミロイド治療クリニック  
TEL: 052-324-1112  
FAX: 052-324-1113  
e-mail: hmoria@n2.gyao.ne.jp  
http://www.mori-ta-amylod.com

**第106回医師国家試験成績**

試験日	平成24年2月11日(土)・12日(日)・13日(月)
合格発表	平成24年3月19日(月)
受験者	102名(新卒者 94名)
合格者	97名 合格率95.1% (新卒者 91名 合格率96.8%)
参考	国立 合格者 4093名 合格率 90.5% 全国 合格者 7688名 合格率 90.2%

(森田弘文)

人も地球も健康に

Yakult

抗悪性腫瘍剤 (オキサリプラチン) エルプラット® 点滴静注液 50mg 100mg

毒薬・処方せん医薬品※

※注意—医師等の処方せんにより使用すること ●「効能・効果」、「用法・用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

株式会社ヤクルト本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-21 銀座木挽ビル ☎0120-589601 (医薬学術部 くすり相談室) 2012年2月作成

## 平成24年卒業生の卒後研修先

千葉大学医学部附属病院では、卒後臨床研修プログラムとして、5種類（プログラムA、B、C、産婦人科、小児科）を用意している。1年目に大学病院、2年目に協力病院で研修する方式（プログラムA）、1年目に協力病院、2年目に大学病院で研修する方式（プログラムB）、1年目・2年目共に大学病院で研修する方式（プログラムC）、その他である。

また、卒後2年間の初期研修プログラムを終えた研修医を対象に後期研修医制度を立ち上げ、シニアレジデントの受入にも積極的に対応している。

研修先プログラム	1年目	2年目	人数	研修先プログラム	1年目	2年目	人数
千葉大B	国立病院機構千葉医療センター	千葉大医学部附属病院	3	千葉県立病院群	千葉県がんセンター	千葉県がんセンター	1
千葉大B	君津中央病院	千葉大医学部附属病院	2	船橋二和病院	船橋二和病院	船橋二和病院	1
千葉大B	千葉市立海浜病院	千葉大医学部附属病院	2	千葉メディカルセンター	千葉メディカルセンター	千葉メディカルセンター	1
千葉大B	千葉市立青葉病院	千葉大医学部附属病院	2	千葉県がんセンター			1
千葉大B	済生会習志野病院	千葉大医学部附属病院	2	亀田総合病院	亀田総合病院	亀田総合病院	1
千葉大B	JA埼玉県厚生連久喜総合病院	千葉大医学部附属病院	1	水戸協同病院	水戸協同病院	水戸協同病院	1
千葉大B	沼津市立病院	千葉大医学部附属病院	1	越谷市立病院	越谷市立病院	越谷市立病院	1
東大医学部附属病院A	東大医学部附属病院		1	竹田総合病院(福島県)	竹田総合病院	竹田総合病院	1
東京医科歯科大学		東京医科歯科大学	1	東京厚生年金病院	東京厚生年金病院	東京厚生年金病院	1
東京女子医大八千代医療センター	東京女子医大八千代医療センター	東京女子医大八千代医療センター	4	虎の門病院	虎の門病院	虎の門病院	1
横浜市立大学附属市民総合医療センター	横浜市立大学附属市民総合医療センター	小田原市立病院	1	公立学校共済組合関東中央病院	公立学校共済組合関東中央病院	公立学校共済組合関東中央病院	1
東京歯科大学市川総合病院	東京歯科大学市川総合病院	東京歯科大学市川総合病院	1	公立阿伎留医療センター(東京あきる野)	公立阿伎留医療センター	公立阿伎留医療センター	1
船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	6	済生会中央病院	済生会中央病院	済生会中央病院	1
済生会習志野病院	済生会習志野病院	済生会習志野病院	5	NTT東日本関東病院	NTT東日本関東病院	NTT東日本関東病院	1
君津中央病院	君津中央病院	君津中央病院	5	三井記念病院	三井記念病院	三井記念病院	1
国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	4	大森赤十字病院	大森赤十字病院	大森赤十字病院	1
都立墨東病院	都立墨東病院	都立墨東病院	3	川崎市立川崎病院	川崎市立川崎病院	川崎市立川崎病院	1
国立国際医療センター	国立国際医療センター	国立国際医療センター	3	横浜市立市民病院	横浜市立市民病院	横浜市立市民病院	1
国立病院機構東京医療センター	国立病院機構東京医療センター	国立病院機構東京医療センター	3	横浜医療センター	横浜医療センター	横浜医療センター	1
国保旭中央病院	国保旭中央病院	国保旭中央病院	3	横浜労災病院	横浜労災病院	横浜労災病院	1
松戸市立病院	松戸市立病院	松戸市立病院	2	横須賀共済病院	横須賀共済病院	横須賀共済病院	1
千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	2	茅ヶ崎市立病院	茅ヶ崎市立病院	茅ヶ崎市立病院	1
千葉労災病院	千葉労災病院	千葉労災病院	2	聖隷浜松病院	聖隷浜松病院	聖隷浜松病院	1
成田赤十字病院	成田赤十字病院	成田赤十字病院	2	佐久総合病院	佐久総合病院	佐久総合病院	1
武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	2	飯塚病院(福岡県)	飯塚病院	飯塚病院	1
JR東京総合病院	JR東京総合病院	JR東京総合病院	1	沖縄県立南部医療センターこども医療センター	沖縄県立南部医療センターこども医療センター	沖縄県立南部医療センターこども医療センター	1
津田沼中央総合病院	津田沼中央総合病院	津田沼中央総合病院	1				

平成24年度 医学部入学者

Table listing medical school students with columns for names and departmental affiliations.

平成24年度 大学院入学者

Table listing graduate school students with names and departmental affiliations.

内 玲往那、榊原淳太、鈴木崇之、中台英里、信本大吾、東原 琢「分子形態解析学」陳 健嘉「腫瘍内科学」菊池 寛、小関寛隆、櫻井健洋、佐々木玲奈、對田 尚、森本真有、若林華恵「整形外科学」稲田大悟、上野啓介、大田光俊、神谷光史郎、木内 均、佐々木俊秀、佐々木康人、佐藤淳、助川浩士、橋本瑛子、藤本和輝、星 裕子、牧聡、宮本周一、山本陽平「呼吸器内科学」漆原崇司、笠井大、加藤史照、島津健吾、須田理香、竹内孝夫、内藤雄介、藤田哲雄「救急集中治療医学」内山なつみ、大網毅彦、砂原 聡、富田啓介「小児外科学」小原由紀子、柴田涼平「麻醉科学」佐藤 晋「臨床感染症学」坂名城 隼「分子ウイルス学」YI RUIRONG「臨床分子生物学」伊藤美緒、小川敢、北島大輔、木村 康、齋藤智昭、鈴木寿和、中元佑輔、宮本 勲「泌尿器科学」五島悠介、西川里佳「先端化学療法学」栗本遼太「神経内科学」岩井雄太、内田智彦、杉山淳比古、古川彰吾、POUDEL ANUPAMA「先端応用外科学」石井清香、磯崎哲朗、浦濱竜馬、小倉由起子、HJ XIN、水藤 広、高橋理彦、松本泰典、高 涛「認知行動生理學」井古田大介、加藤澄江、薛 陸景、高梨利恵子、田中康子、濱田裕幸「環境労働衛生学」牧之内崇「放射線医学」稲葉浩二、金澤亜希、武田朋子、東ヶ崎巖太郎、向井宏樹「細胞治療内科学」河野貴史、清水 亮、滝口朋子、東ヶ崎繪美、中山哲俊「遺伝子制御学」松木彩子「神経科学」西中宏史「循環病態医科学」石村昌之、馬話智子、高原正幸、西 毅、廣瀬雅教「形成外科学」安達直樹、内田光智子、内田悠記、小坂健太郎、手塚崇文、徳元秀樹「免疫発生学」MUKI ANGELA、林崎浩史「法医学」石井名実子、鳥光 優「生殖機能病態学」河原井麗正「環境生命医学」坂本 昇、菅田陽太「感染症免疫学」赤星哲平「心臓血管外科学」阿部真一郎「呼吸器病態外科学」田中教久、山本高義、尹貴正「細胞分子医学」大石賢吾、小出周平「精神医学」榎原雅代、沖田麻優子、高瀬正幸「眼科学」海保朋未、梶田房枝、新沢知広「免疫制御学」尾畑佑樹「分子腫瘍生物学」ISLAM MOHAMMAD SAZZA、SHEIKH AFZAL、福田真佑、江 媛媛「医療行政学」青柳玲子、種村菜奈枝、

修士課程

「呼吸器内科学」稲垣武「神経生物学」坂本宗樹「認知行動生物学」村神瑠美、野口玲美、後藤悠人、古閑靖子、磯田洋美「代謝生理學」張 錫麟、高橋朋子「細胞治療内科学」佐藤由美、久野響子「分子形態解析学」瀨川俊介「発生生物学」吉田千鶴「生殖機能病態学」大久保毅「分化制御学」山本拓也「免疫発生学」松ヶ枝奈央、金井 麗、中野友理、玉木友樹、和田朋子「感染免疫学」小山綾葉「微生物資源学」八原美沙、野中恵里香「臨床医科学」山下慶、李 恵子、尾崎匡邦「免疫制御学」穴井友也「分子腫瘍生物学」上原 悠、藁谷美雪、平岡桐子、井上貴博

人事異動

教授 総合安全衛生管理機構 今関 文夫(昭54) (腫瘍内科学准教授より) 放射線医学 宇野 隆(昭63) (同准教授より) 特任教授 中川 彰子 (川崎医大准教授より) 中里 道子(平2)

准教授

准教授 神経内科学 朝比奈 正人 (同講師より) 遺伝子制御学 廣瀬 晃一(平5) (同講師より) 法医学 齋藤 久子(鹿兒島大・平5) (同助教より) 講師 肝胆臓外科 加藤 厚(平元) (同助教より) 細胞治療内科学 櫻井 健一(平4) (同助教より) アレルギー・膠原病内科 加々美新一郎(富崎医大・平6) (同助教より) 救急集中治療医学 渡邊 栄三(平9) (同助教より) 眼科 馬場孝之 (同助教より) 代謝生理学 向 英理 (京都大学研究員より) 社会精神保健教育研究センター 金原 信久 (精神医学助教より)

千葉県職員人事異動

精神科医療センター 平田 豊明(昭52)

センター長(新採)

深見 悟郎(平7) 主任医長(精神保健福祉センター次長) がんセンター 永田 松夫(昭53) 医療局長(診療部長) 今井 美絵(昭62) 集中治療部長(新採) 荒木 仁(平4) 主任医長(医長) 鈴鹿 清美(信州大・平3) 主任医長(医長) 板倉 明司(福井医大・平4) 主任医長(医長) 伊勢美樹子 主任医長(医長) 吉田 泰司(平6) 主任医長(新採) 新行内雅斗(平5) 主任医長(医長) 守屋 康充 主任医長(新採) 堺田 司 主任医長(医長) 松井由紀子(平7) 主任医長(医長) 鴨田 博人(平10) 医長(新採) 鈴木 拓人 医長(新採) 田村 創 医長(新採) 循環器病センター 林田 直樹(愛媛大・昭54) 診療部長(心臓血管外科部長) 鬼頭 浩之(昭61)

心臓血管外科部長(主任医長)  
 徐 基源(平7) 主任医長(医長)  
 岡本 佳昭 主任医長(医長)  
 梶沢 政司(平15) 主任医長(医長)  
 西須 孝(平元) 整形外科部長(主任医長)  
 仲野 敦子(平2) 耳鼻咽喉科部長(主任医長)  
 皆川 真規(平元) 第二内科部長(主任医長)  
 富板美奈子(平元) アレルギー科部長(主任医長)  
 安藤 咲穂(平元) 精神科部長(新採)  
 江口 修(鹿児島大・昭61) 周産期センター産科部長(新採)  
 本間 澄恵(平6) 主任医長(医長)  
 小俣 卓(信州大・平7) 主任医長(医長)  
 有本友季子(平8) 主任医長(医長)  
 敷川 逸郎 主任医長(医長)  
 星野 直 主任医長(医長)  
 救急医療センター 藤田 久徳 主任医長(医長)

稲葉 晋(秋田大・平8) 主任医長(医長)  
 佐野 雅則(平7) 主任医長(医長)  
 山内 利宏(東慈愛徳大・平8) 主任医長(医長)  
 佐原病院 米山 泰生(平11) 医長(新採)  
 藤巻 茂謙(平12) 医長(新採)  
 新井 玄(三重大・平15) 医長(新採)  
 精神保健福祉センター 林 偉明(昭61) 技監(精神科医療センター医療局長)  
 安房健康福祉センター 大野由記子(東北大・昭57) センター長(夷隅健康福祉センター長)  
 野田健康福祉センター 杉戸 一寿(平元) センター長(印旛健康福祉センター副技監・副センター長)  
 香取健康福祉センター 葛西 正明(平3)

センター長(習志野健康福祉センター副技監・副センター長)  
**千葉県職員より退職**  
 浅野 誠(昭48) 精神科医療センター長  
 館崎慎一郎(昭46) がんセンター医療局長  
 新田 正和(平10) 救急医療センター医長  
 西森 孝典(平7) 佐原病院医療局診療部外科部長  
**千葉県職員人事異動**  
 青葉病院 田中 正(昭49) 病院長(君津中央病院副院長)  
**日本医師会新役員**  
 常任理事 石川 広己(昭55) 道永 麻里(昭56)

**平成23年度第2回常任理事会議事要旨抜粋**

日時：平成23年11月17日(木) 18時より  
 場所：東京ステーションコンファレンス605 A室  
 出席者：伊藤晴夫(会長)、大井利夫(副会長)、  
 濟陽高穂(副会長)、  
 鈴木信夫(副会長)、  
 税所宏光(参与)、  
 青木謙、岩倉弘毅、  
 岡本和久、坂田早

1. 報告事項  
 (1) 予算執行状況(中間報告)について  
 白澤浩理事より資料にもとづき、平成23年度の中間報告があった。収入、支出ともほぼ例年どおりであるが、一般管理費・旅費については東日本大震災義援金の被災会員への謹呈、また、課外活動助成金・学生活動助成金については亥鼻祭実行委員会への寄附のため若干予算を超過している旨、説明があった。  
 (2) 新るのはな同窓会館第一期工事について  
 田邊政裕理事より資料にもとづき、新るのはな同窓会館の建設予定の変更について報告があった。12月以降に入札の告示、来年1月中旬以降に開札、建設会社が決定され、竣工は平成24年12月の予定である旨、説

明があった。  
 (3) 会報発行予定について  
 清水栄司理事よりのはな同窓会報159号は12月22日に発行予定との報告があった。  
 (4) 震災関連  
 伊藤会長より資料にもとづき、東日本大震災における会員の被害について説明があり、被害の大きかった石巻在住の会員等を訪問、義援金を謹呈した旨、報告があった。  
 (5) 各委員会報告  
 協議事項の中で、併せて報告があった。  
 (6) その他  
 瀧口正樹理事より2014年版同窓会名簿の発行について、収支等の報告があった。広告知入の一部が同窓会に入ること、名簿は同窓会会員以外には販売しないこと等が説明された。  
 不詳会員が増えている理由について、初期研修制度の導入により医局等による把握が困難となっている、また、個人情報保護法により研修病院からの情報が得られない等の意見があった。

2. 協議事項  
 (1) 学外研究助成の選考結果について  
 白澤理事より資料に基づき選考委員による選考理由と結果について説明があり、中村紘規氏(山梨医大・平成15年卒)に学外研究助成金を授与することが承認された。  
 学外研究助成については、大学あるいはそれに準ずる施設以外の会員が応募できるという規定であるが、応募者、該当者が少なく、同窓会賞と共に今後のあり方を検討したいとの説明があった。  
 (2) ゐのはな同窓会賞についての検討  
 ゐのはな同窓会賞については、社会貢献賞(仮称)と功労賞を主眼とする、また、学術賞は2年間程度の過渡的措置として減額して継続する、学外研究助成については中止する、以上の方向で次回の常任理事会に具体案を提出し、検討することとした。  
 (3) 評議員会のあり方について  
 評議員については、定年制も考慮し、各学年から1人、各支部から1人など新たな選出方法を検討する、あるいは、現在の評議員に各学年の意見集約を託す、

**平成23年度第3回常任理事会議事要旨抜粋**

日時：平成24年2月15日(水) 18時より  
 場所：東京ステーションコンファレンス605 A室  
 出席者：伊藤晴夫(会長)、

平成元年卒以降の評議員が集まり検討するなど、素案を次回の常任理事会に提出し、検討することとした。  
 (4) 役員会務分担について  
 資料にもとづき会務分担につき説明があり、承認された。  
 (5) その他  
 田邊理事より、アメリカ医学教育学会の資料に基づき、学生と同窓会との関係について報告があり、下記のような意見が出された。  
 ・学生による募金活動等、在学時代から同窓会活動に参加を促す。  
 ・同窓会から学生に対し目に見える形の支援を行い、また学生のニーズを拾い上げる(名刺作成等)。  
 ・同窓会報の記事等により、大学や学生に対して行っている支援の例を周知する。  
 ・同窓会報に学生が関心を持つ記事を多く掲載する。  
 3. その他  
 次回開催について  
 次回の常任理事会は平成24年2月15日(水)とする。

大井利夫(副会長)、  
 濱陽高穂(副会長)、  
 鈴木信夫(副会長)、  
 青木謙、赤星至朗、  
 秋葉哲生、岩倉弘  
 毅、早乙女勇、清  
 水栄司、白澤浩、  
 鈴木守、田中光、  
 瀧口正樹、田邊政  
 裕、角田隆文、吉  
 川廣和、  
 (敬称略)

議事に先立ち、逝去され  
 た大藤正雄名誉教授・元副  
 会長に黙祷を捧げた。

伊藤晴夫会長の挨拶の後、  
 同会長が座長となって議事  
 が進められた。

**議案**

**1. 報告事項**

(1) 予算執行状況(中間報告)  
 について

白澤浩理事より資料にも  
 とづき、平成23年度の中間  
 決算報告があった。収入に  
 ついては会費収入が例年よ  
 り少なめであるが、会報の  
 広告掲載収入、名簿作成に  
 よる収入がありほぼ例年ど  
 おりとなり、支出について  
 は、会報・会誌の担当印刷  
 会社の変更により節減でき  
 たとの報告があった。

(2) 新のはな同窓会館第一  
 期工事について  
 田邊政裕理事より資料に

もとづき、新のはな同窓  
 会館のコンセプト、立地場  
 所、今後のスケジュール(開  
 札日、着工、竣工予定など)、  
 建物の概要についての説明  
 があった。

平成24年11月14日(水)  
 (2)平成24年度総会について  
 (1)により開催日程が承認  
 され、担当は東京のはな  
 会、開催場所は東京とする  
 こととした。詳細について  
 は今後検討することとなっ  
 た。

(3) 広報編集関係  
 鈴木信夫副会長より資料  
 によりオンライン会報につ  
 いて説明があった。各地区  
 りのはな会へオンライン会  
 報編集委員の推薦を依頼し、  
 総会開催日にオンライン会  
 報編集委員会を予定してい  
 ることが報告された。

(3)平成24年度予算編成  
 白澤理事より平成24年度  
 の予算編成に当たって、検  
 討すべき点について説明が  
 あり、以下のような提案が  
 なされた。①旅費を増額。

清水栄司理事より次回  
 のはな同窓会報の発行は5  
 月を予定していることが報  
 告された。

②のはな同窓会賞は昨年  
 予算削減のため1名とした  
 が、平成24年度は2名80万  
 円を計上。③猪之鼻奨学会  
 は平成24年度4月から公益  
 財団法人化予定のため支援  
 として助成金を一定年限増  
 額。④会報・会誌について  
 は担当印刷会社の変更によ  
 り予算を節減。以上のこと  
 を踏まえて平成24年度の予  
 算案を編成することが了承  
 された。

2. 協議事項  
 (1)平成24年度行事予定  
 瀧口正樹理事より資料に  
 基づき、以下の行事予定が  
 承認された。

平成24年4月19日(木)、  
 11月14日(水)  
 平成25年2月14日(木)  
 (水曜、木曜、交互の開  
 催)

常任理事会  
 平成24年6月16日(土)  
 会報発行  
 平成24年5月、9月、  
 平成25年1月  
 同窓会賞決定  
 平成24年4月19日(木)  
 学外研究助成決定

田邊理事より、資料に基  
 づき、のはな同窓会賞学  
 術賞は他の関連団体の賞と  
 重複するため代わりに社会

貢献賞を新設し、すでにあ  
 る功労賞との二つを主眼と  
 する旨説明があった。これ  
 に伴うのはな同窓会賞規  
 定の改定案が示され、承認  
 された。猪之鼻奨学会への  
 助成は期間を限り増額する  
 こととした。任期満了のた  
 め交代する選考委員に代わ  
 り、補充される選考委員候  
 補者名の報告があり「織田  
 成人、田邊政裕(委員長)」、  
 承認された。

同窓会の活性化を図るた  
 めに評議員の役割、評議員  
 会の開催等について引き続  
 き検討することとした。

3. その他  
 田邊理事より参考資料に  
 より、会費制度に加えて寄  
 附制度の強化のため、学生  
 への助成、卒業生に対する  
 サポートなどの働きかけの  
 重要性について説明があり、  
 Home-Coming Day(新同窓  
 会館の活用)・Half-Century  
 Society・Young Alumniな  
 どを検討することが提案さ  
 れた。

田邊理事より、資料に基  
 づき、のはな同窓会賞に  
 ついて説明があった。これ  
 に伴うのはな同窓会賞規  
 定の改定案が示され、承認  
 された。猪之鼻奨学会への  
 助成は期間を限り増額する  
 こととした。任期満了のた  
 め交代する選考委員に代わ  
 り、補充される選考委員候  
 補者名の報告があり「織田  
 成人、田邊政裕(委員長)」、  
 承認された。



**Japan Medical Spirits**

「復興の象徴」組織員会  
 から表彰

去る3月2日、雪風の  
 仙台で東日本震災から  
 の医療の復興に献身的に  
 貢献した人々やグループ  
 を「復興の象徴」として  
 表彰する式典が行われ、  
 Japan Medical Spiritsが  
 「復興の象徴」組織員会か  
 ら顕彰されました。Japan  
 Medical Spiritsは佐藤二  
 郎先生(昭和56卒、現東  
 京女子医大八千代医療セ  
 ンター麻酔科教授)が中  
 心となって、震災地域の  
 医療支援のために組織し  
 た団体で、宮城県北部に  
 位置する気仙沼市立本吉  
 病院、登米市立登米市民  
 病院、岩手県南部の県立  
 高田病院などにボランティア  
 の医師を派遣してい  
 ます。また武田薬品・日  
 本NPOセンターからの助  
 成を受け婦人科巡回診療  
 プログラムを陸前高田市  
 周辺で行う準備を進めて  
 います。式典会場のウエ  
 スティンホテル仙台には  
 約30名の参加者が集まっ  
 て顕彰パーティーが行われ、  
 佐藤先生が「Japan  
 Medical Spiritsの代表と  
 して出席しました。全14  
 団体が顕彰されましたが、  
 その中でも「Japan Med-  
 ical Spiritsは特別枠とし  
 て選出され、被災地以外  
 では唯一の受賞となりま  
 した。」「復興の象徴」組  
 員会はサノフィ・アベン  
 ティス、全国病院協会、  
 日本病院会が共催し、厚  
 労省、文科省などの後援  
 を受けているもので、こ  
 の受賞はのはな同窓会  
 としてもうれしいニュー  
 スです。

「Japan Medical Spirits  
 はまもなく正式なNPOと  
 して承認を受け、今後も  
 震災地域を中心として活  
 動を拡大していく予定で  
 す。震災地域は支援して  
 いた医療スタッフが急速  
 に引き上げてしまった現  
 在、ある意味では震災直  
 後よりもさらに厳しい医  
 療過疎に直面しています。  
 Japan Medical Spiritsに  
 はよりいっそうの活躍を、  
 そして会員の先生方には  
 人的、経済的なサポート  
 を期待しています。」  
 亀井克彦(昭56)

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意、  
 効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関  
 連する使用上の注意等につきましては添付文書を  
 ご参照ください。  
 ■資料は当社医薬情報担当者にご請求ください。

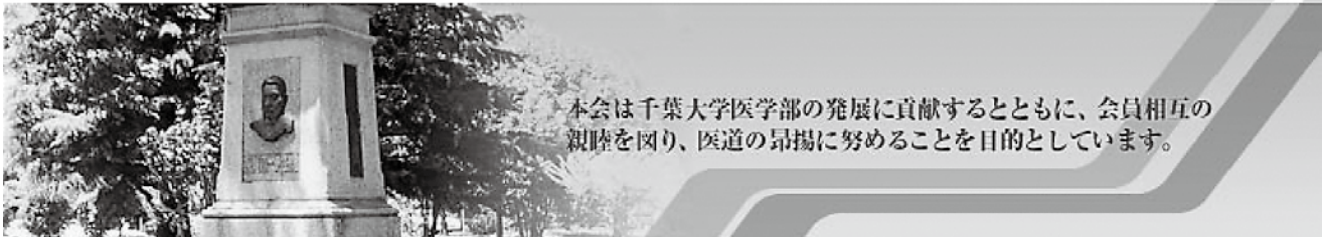
H<sub>2</sub>受容体拮抗剤  
**プロテカジン錠5・10**  
 PROTECADIN® tablet 5・10 一般名：ラフチジン

製造販売元  
 資料請求先  
 (医薬品情報室)  
**TAIHO** 大鵬薬品工業株式会社  
 〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27  
 TEL.0120-20-4527  
 http://www.taiho.co.jp/ 2010年8月作成

# ようこそ“オンライン会報”

<http://www.inohana.jp/online/index.html>

みのはな 千葉大学医学部 みのはな同窓会



本会は千葉大学医学部の発展に貢献するとともに、会員相互の親睦を図り、医道の昇揚に努めることを目的としています。

## オンライン会報

### オンライン書庫

#### 【医科学情報】



#### 放射能に関する報道

- 商業誌報道（平成23年4月9日～平成24年2月1日）
- 福島原発事故による放射能汚染に関する商業紙報道の見出し・概要（平成23年）



報道から考える放射線汚染問題  
鈴木信夫（みのはな同窓会副会長）  
（平成23年度みのはな同窓会埼玉県支部総会での講演）  
[2012.1.10 掲載]

#### 【書籍】

掲載書籍をご覧になりたい方は同窓会本部へご連絡ください。

#### 1. 会員著書



水から学ぶ健康の泉  
—被災・被爆・ストレス編—  
・「目次」を読む  
・「はしがき」を読む



水から学ぶ健康の泉  
—その3—  
・「目次」を読む  
・「著書紹介」を読む

#### 2. その他



医療人の職責  
東日本大震災  
被災地離島看護師の手記  
・「目次」を読む  
・「本文(P6-7、P38)」を読む

オンライン会報にアクセスして  
動画をご覧になってください。

オンライン会報

検索





【商業紙報道】

● 医科学情報（平成23年5月16日～平成24年2月10日）

		新聞	掲載面	掲載日
糖尿病	細胞が移植した膵臓内でインスリンを生成という研究、EMBO モレキュラーメディスン電子版発表した	産経	12	10.8
樹状細胞	自然免疫、獲得免疫を結ぶ 樹状細胞が働き出す仕組み 2011年ノーベル生理学 医学賞はボイトラー氏 ホフマン氏 スタインマン氏	読売	12	10.9
iPS 細胞	米で東大チームが iPS 細胞から血小板 臨床試験へ	朝日	13	1.21
テロ	東大医科の教授らなどの科学者は H5N1 に関する研究を停止する声明を米科学誌サイエンス(電子版)と英科学誌ネイチャーに発表	読売	3	1.21
造血幹細胞	造血幹細胞に 休憩 を指示	朝日	12	1.16
ALS	BMI 大阪大学の教授が ALS の患者を対象に臨床研究 中京大学の教授が大脳基底核に緊張の度合いを発見	読売	12	1.8
再生医療	再生医療へ進歩急速 細胞初期化の歴史 再生医療これから	朝日	13	1.5
川崎病	北里大医学部の教授が川崎病で心臓の冠動脈狭窄を防止するため免疫グロブリン療法	産経	14	12.18

話題



**ストレス度検査  
野外実習講座の風景**  
主催 千葉大学大学院医学研究院  
環境影響生化学  
(第9回印旛沼流域環境・体験フェ  
アにて)  
[2011.12.16 掲載]



**飲用水と食品における放射線レベ  
ルの簡易測定結果**  
千葉大学大学院医学研究院環境影  
響生化学 講師 喜多和子  
(平成23年7月16日開催の八王子  
市「市民講座」での講演)  
[2011.12.6 掲載]

※閲覧には会員用IDとパスワードが必要です。お持ちでない方は申請ページをご覧ください。

水から学ぶ健康の泉 —被災・被爆編—  
(平成23年7月16日開催の八王子市「市民講座」での講演)

講演1：生体と水  
～被災者に対する健康管理の視点から～  
千葉大学大学院医学研究院環境影響生化学  
助教 田中健史



[2011.12.6 掲載]

講演2：大規模災害時の医療における水道と電気  
～河川の役割を考えつつ～  
千葉大学大学院医学研究院環境影響生化学  
非常勤講師 吉田政高



[2011.12.6 掲載]

AJINOMOTO®

成分栄養剤

イレンタール® 配合内用剤

ELENTAL® ●薬価基準収載

★「効能又は効果」、「用法及び用量」、  
「禁忌を含む使用上の注意」等  
詳細は製品添付文書をご参照ください。

消化器関連情報の配信サイト



<http://www.ajinomoto-seiyaku.co.jp/ajimed/>  
先方のお役に立てるような情報を配信する医療関係者専用の会員サイトです。



製造販売

味の素製薬株式会社

〒104-0042 東京都中央区入船二丁目1番1号

〔資料請求先〕

味の素製薬株式会社 くすり相談

☎0120-917-719

2010年4月作成  
ED-JB54-0410-DNP

(平成24年4月30日現在)

# 新あのはな同窓会館設立事業募金状況

平成21年の千葉大学医学部創立135周年を機に  
 始めました募金につきまして、下記の方々、  
 施設、団体等からご協力を頂きました。ご芳名  
 は新会館の銘板に刻させて頂きたく存じます。  
 なお、日頃よりご厚情をお寄せ頂いております  
 医療機関等におかれましても、なお一層のご支  
 援を賜れますれば誠に幸甚に存じます。

佐藤 大悟	高橋 健太郎	野村 加奈子	山田 由美
佐藤 孝太郎	高橋 はな	林 康子	山本 里美
佐藤 明日香	田中 美砂子	林 宏樹	山本 太郎
佐藤 健吾	田中 勇氣	樋口 一樹	山口 圭太
佐本 健二	田村 和之	古谷 大輔	山口 康平

芳名板デザイン

## 寄付者一覽

(敬称略)

### 一般個人

片野 鈴枝  
 久保田勘也  
 稲瀬 道和  
 進藤 輝山

### 医療機関

(医) 大平会嶺井第一病院  
 上都賀総合病院  
 三田川鉄千葉病院  
 埼玉厚生連 熊谷総合病院  
 (医) 社団よつ葉会介護老人  
 保健施設 さかき光陽  
 (医) 三愛記念病院  
 (医) 三愛記念そが病院  
 下都賀総合病院  
 (医) みはま病院  
 聖隷浜松病院  
 聖隷佐倉市民病院  
 聖隷横浜病院  
 千葉中央メディカルセンター  
 (医) 船橋クリニック

### 企業・法人等

赤星工業(株)  
 旭化成ファーマ(株)  
 あすか製薬(株)  
 アステラス製薬(株)  
 アストラゼネカ(株)  
 アルフレックスファーマ(株)  
 石井食品(株)  
 (株) 石渡商事  
 (株) ウチダ和漢薬  
 栄研化学(株)

エスエス製薬(株)  
 エーザイ(株)  
 エース損害保険(株)  
 (株) エスアールエル  
 エルメッドエーザイ(株)  
 大塚製薬(株)  
 (株) 大塚製薬工場  
 小野薬品工業(株)  
 科研製薬(株)  
 化研生薬(株)  
 鹿島建設(株)  
 勝又自動車(株)  
 (株) 北原防災  
 キッコマン(株)  
 キッセイ薬品工業(株)  
 杏林製薬(株)  
 興和(株)  
 協和醗酵工業(株)  
 キリンファーマ(株)  
 グラクン・スミスクライン(株)  
 クラシエ製薬(株)  
 クラシエ薬品(株)  
 京成建設(株)  
 小太郎漢方製薬(株)  
 (株) 小山商会 千葉営業所  
 佐藤製薬(株)  
 サノフィ・アベンティス(株)  
 (株) サラト  
 沢井製薬(株)  
 参天製薬(株)  
 (株) サンリツ  
 (株) 三和化学研究所  
 (株) 志学書店  
 シェリング・プラウ(株)  
 塩野義製薬(株)  
 白鳥製薬(株)  
 (株) 正文社  
 ゼリア新薬工業(株)

第一三共(株)  
 大正製薬(株)  
 大日本住友製薬(株)  
 大鵬薬品工業(株)  
 タカイ医科工業(株)  
 武田バイオ開発センター(株)  
 武田薬品工業(株)  
 田辺三菱製薬(株)  
 (株) 千葉銀行  
 (株) 千葉京成ホテル  
 千葉中央会計事務所  
 千葉日産自動車(株)  
 中外製薬(株)  
 (株) 銚子丸  
 (株) ツムラ  
 帝人ファーマ(株)  
 テルモ(株)  
 トーアエイヨー(株)  
 (株) 東葛幸文堂  
 東京海上日動火災保険(株)  
 財団法人 同仁会  
 東和薬品(株)  
 富山化学工業(株)  
 鳥居薬品(株)  
 (株) ナリコー  
 成田山新勝寺  
 ニプロファーマ(株)  
 日興コーディアル証券(株)  
 日本イーライリリー(株)  
 日本化薬(株)  
 日本ケミファ(株)  
 日本新薬(株)  
 日本製薬(株)  
 日本臓器製薬(株)  
 日本たばこ産業(株)  
 日赤(リ)ンカイゲルハイム(株)  
 ノバルティスファーマ(株)  
 バイエル薬品(株)

(株) バイオニア  
 萬有製薬(株)  
 ファイザー(株)  
 (株) 富士フィルムメディカル  
 扶桑薬品工業(株)  
 プリストル・マイヤーズ(株)  
 (株) ほてい家  
 ホテルグリーンタワー幕張  
 ホテルニューオータニ幕張  
 マイラン製薬(株)  
 丸石製薬(株)  
 マルホ(株)  
 丸万壽司  
 三井住友海上火災保険(株)  
 (株) ミノファージェン製薬  
 明治製菓(株)  
 持田製薬(株)  
 (株) ヤクルト  
 山崎製パン(株)  
 (株) ヤンセンファーマ  
 ロート製薬(株)  
 ワイス(株)  
 わかもと製薬(株)  
 千葉大学医学部附属病院  
 臨床医学研究助成会

### 医学部後援会

浅井 俊治 安達 哲夫  
 新井 英雄 有里 敬代  
 飯田 豊 飯田 義三  
 井窪 保彦 池内 英男  
 石神 博昭 石田 和弘  
 和泉みどり 伊東 龍也  
 井上 憲二 井福 正博  
 岩花久仁子 海村 昌和  
 大橋 茂 太田 昌男  
 大庭 恵 緒方 昌一  
 岡本 弘子 奥山 広明

小野 文雄 小谷野 信 笠間 昭彦 勝俣 賢二 金子 浩一 川端 基彦 北爪 秀政 工藤 琢也 藏田 昌子 小曾根卓朗 小関 洋男 小関 清 櫻井 茂 佐藤 恒明 鈴木 壽郎 杉浦 英一 高浦 和彦 高橋 恒雄 田島 啓二 塚田 俊行 富永 庸平 豊田 浩史 中川 康 中田 徹亮 東ヶ崎邦夫 平山 敏雄 廣瀬 俊夫 藤田 邦臣 前田 雅治 松田 一男 三田 信明 森 豊 山本 幸一 吉井 仁実 吉澤 尚嗣 若松 英彦 和田 正英	小野 文雄 小谷野 信 笠間 昭彦 勝俣 賢二 金子 浩一 川端 基彦 北爪 秀政 工藤 琢也 藏田 昌子 小曾根卓朗 小関 洋男 小関 清 櫻井 茂 佐藤 恒明 鈴木 壽郎 杉浦 英一 高浦 和彦 高橋 恒雄 田島 啓二 塚田 俊行 富永 庸平 豊田 浩史 中川 康 中田 徹亮 東ヶ崎邦夫 平山 敏雄 廣瀬 俊夫 藤田 邦臣 前田 雅治 松田 一男 三田 信明 森 豊 山本 幸一 吉井 仁実 吉澤 尚嗣 若松 英彦 和田 正英	醫學部後援會 脇田 正実 和田 正英	醫學部教職員等 環境影響生化学 鈴木 敏和 吉田 政高 神経生物学 山口 淳 久保 武一 薬理学 坂下 育美 発生生物学 川内 大輔 室山 優子 免疫発生学 細川 裕之 岩村 千秋 山下 政克 救急集中治療医学 仲村 将高 放射線医学 川田 哲也 細胞分子医学 宮城 聡 臨床分子生物学 武川 寛樹 総合診療部 大平 善之 先端和漢診療学寄附講座 関矢 信康 地野 充時 久永 明人 循環型地域医療連携システム学 馬杉 綾子 計良 和範 病理部 谷澤 徹 千葉大医・旧助手会 事務部 清水 富雄 堀江 寛	丸九比呂志 渡邊 彦憲 倉田 博夫 横江 康夫 昭16⑫ 浦野 英夫 森島 猪二 下山 賢次 西澤英三郎 橋本 孝平 藤江 寛忠 水間 正冬 専17 吉田 芳樹 昭18 梶山 豊 佐藤 進一 竹蓋莊一郎 田中 進 専18 川辺 敏 山崎 康弘 山田 悦朗 来仙 隆 昭19 井出源四郎 北澤 幸夫 清水 衛 野際 英雄 平形 義人 専19 池 二郎 村島 正博 山崎 衛 昭20 長田 浩 草間 隆 近内 康夫 横地 尚 渡邊 昌平 専20 今島 浩 久保田亨一 今島 浩 勝呂 安 鶴澤 壽 昭21 石原 眞 大磯 英雄 郡山 春男 国井 光智 齋藤 豊一 佐藤 壹三 中島 浩二 萩野 裕 古江 増蔵 本間 三郎 昭22 三宅 和夫	石郷岡 寛 清水 健三 千田喜久雄 新田 実男 信藤 羊一 福島 溪二 茂又 眞祐 昭23 板垣 修造 一色 重義 伊東 和人 上野 高次 海老原恒雄 九島 璋二 窪谷 満雄 斉藤 嘉一 多賀谷 譲 奈良 四郎 西堀 乙彦 平岡 眞 藤崎 滋 前田 裕 宮崎 隆次 和田 寛 専23 梅沢 亮 大野 信次 大平 馨 柿栖 米夫 香取 郁雄 齋川 俊一 三瓶 善康 鈴木 東洋 竹内 盈 橋本 眞 中山 重男 水沼 三郎 宮入 繁夫 渡辺 兼司 昭24 石谷 治彦 大林 泰 君島善次郎 木村 康 國府田幸夫 小林 準三 佐々木宣明 鈴木 文男 鈴木 直基 高野 俊男 田中 光 月岡 道雄 土屋 與之 寺島東洋三 中島 令一 中村 和之 長澤 仁一 菱木 達明 福永 和雄 武藤 滋 専24 伊佐 博夫 石井 克巳 石井 貞一 石川 哲也 植草富二郎 岡田 宏一 大橋 平治	奥野 文雄 神山 一郎 河野 正賢 霜島 正雄 下坂正次郎 鈴木 一郎 土田 功一 徳政 義和 中村 彰 中村 精男 幡野 永由 久安 徹 福山 正臣 南谷 幹夫 山川 晋吾 山口 寅三 山本 惇 佐藤 恒好 池田佐嘉衛 稲田 正實 越後貫 誠 佐久間光史 葛田 瑞世 廣田 和俊 専25 相磯 敬明 青木 宣昭 石毛 義治 市川 邦男 円城寺 栄 神原 昌言 島田 光重 嶋田 勉 下野 武 高木 美典 竹之内 弘 中澤 甫計 中田 秀明 中野 正義 長嶋 晟 奈良林 定 畑 徹 船曳 甫 宮内謙二郎 森川 二郎 山崎 義人 横山 宏 渡辺 武夫 阿部 定生 昭26 阿部 定生 石井 邦夫 伊藤 進 大倉 淳男 久我 哲郎 武井 稔 土手内守人 西宮 脩 細田 裕 柳澤 文憲 大和 泷航 吉田 敏郎 渡部 士郎 吉田 敏郎 専26 大沢 弘和 小関 芳昌 津村 澄雄 内藤 和穂 平川 達	昭27 阿部 忠夫 有田 文章 井上 幸万 大濱 博利 小川源太郎 小沢 昭司 河目 堯介 櫻井 稔 黄田 昭光 住吉 孝男 莊司 榮徳 高見澤裕吉 橋爪 壮 原 恒男 関口 和夫 武宮 三三 得本 真義 中野 清幸 長崎 進 鍋谷 欣市 広田 和俊 本間 康正 三橋 慎一 渡辺 勲 渡辺 武 専27 石橋 源三 磯垣 弘 壬生倉 勝 昭28 青木太三郎 秋山 龍男 阿部田辰一 石川 佳夫 上野 正和 奥井 勝二 小田 博之 小幡 裕 加藤 一雄 金子 敏郎 唐木 清一 川邊 兼美 窪田 靖夫 熊谷 信夫 小濂 雅亮 小山隆一郎 澤田 勤也 柴崎 晃 清水 惟義 鈴木 正剛 鈴木 正巳 平林 健六 武市 亨 寺嶋 克郎 戸賀崎義洽 成田 光陽 長谷川正博 平田 正雄 本位田泰介 松本 龍二 森山 典男 山下 泰徳 山田 達哉 吉田 道 吉田 恭二 若杉幹太郎 昭29 荒木 晃 有馬 道男	大藤 正雄 大原 一夫 鹿山 徳男 佐藤 忠夫 佐野 迪雄 柴田千葉男 島崎 淳 富岡 清海 中塚 正夫 中野 練一 根本 幸一 長谷川 透 羽生富士夫 福島 通夫 和田 房治 昭30 秋元 駿一 浅見 敦 浅利 行男 新井多喜男 石神 一良 伊谷 昭幸 伊藤 敏夫 岩井 忠志 大坪 雄三 片山 喬 貴家 昭而 小林 健次 小林 茂 小林 富久 後藤 澄夫 斉藤 正道 指田 和明 清水 良平 志村 昭光 高橋 康 高橋 宣光 滝口 光雄 十束 支朗 富田 裕 中島 和彦 中野 政雄 永野 俊雄 野本 和男 藤山 嘉信 古屋 大雄 松田三樹雄 丸川 和太 南園 義一 村瀬 靖 森田 茂 横田 俊二 吉原 一郎 渡邊 英詩 昭31 庵原 昭一 上原すゝ子 海老原雄一 小野清四郎 加藤 繁夫 桑原 久 香田 真一 杉山 伸子 辻 輝藏 西原源太郎 船橋 茂 森 碧 山口 慶三 山野 元 昭32 有馬 道雄 飯塚 正章
--	--	--------------------------	---	---	---	---	--	---







代謝生理学 桑木 共之	眼科 石渡 東海 柿栖 米次 山中三千代	脳神経外科 石川 徹 遺伝子生化学 芦野 洋美 腫瘍病理学 北川 元生	泌尿器科学 古木 新 石引 雄二 茂田 安弘	薬理学 井上 優 中谷 晴昭	感染生体防御学 野呂瀬一美 守 正英	分子生体制御学 木村 定雄 池上 智康	細胞治療内科学 小林 淳二 清水 公子	臓器制御外科学 鈴木 啓之 皮膚科学 黒田 啓	佐藤 千鶴 分子病態解析学	米満 博 形態形成学 年森 清隆 外山 芳郎	齋藤哲一郎 齋藤哲一郎 齋藤哲一郎	動物病態学 伊勢川直久 生殖機能病態学 小野寺 勉	小野 章弘 小林 章弘 芳野 春生	遺伝子制御学 中島 裕史 分化制御学 内田 昭夫	免疫発生学 中山 俊憲 小児病態学 阿部 博紀	太田 節雄 川上 武子 多田 裕司	渡辺 福 整形外科学 小野崎 晃	鈴木 弘祐 田波 秀文 渡邊英一郎	耳鼻咽喉科学 岡本 美孝 亀谷 秀夫	腫瘍内科学 山越 隆行 腫瘍内科学 足立 公代	奥田 桂子 川島柳太郎	豊田二美枝 森山 行雄 伊藤 勇夫	葛田 憲道 生水真紀夫 宮武昌一郎	近藤 正大 花城恵美子 金城 正樹	上林 直子 露崎 俊明 篠原 寛休	武内 重樹 土屋 恵一 鎌田慶市郎	小関 洋男 寺田 修久 三橋 麗子	宇野沢隆夫 越後貫道子 久原 厚生	小林千鶴子 及川 貞 多田 武江 馬場 勇次	矢沢 孝文 伊藤 俊夫 精神医学 日下 忠文	荒居 龍雄 遠山 富也 呼吸器病態外科学 恒元 博	細胞分子医学 岩間 厚志 循環病態医学 江原 和枝	杉林 昭男 宮内 郁枝 臨床分子生物学 石山 信之	内山 清春 小河原克訓 木村 孝雪	大川 和子 佐藤 匡司 嶋田 健	盛永 智子 先端応用外科学 伊賀 浩	久保田 亨 篠原 靖志 原田 昇	元山 逸功 生命情報科学 田村 裕	心臓血管外科学 松宮 護郎	須田 洋臣 寺田 洋臣 日暮 裕 米満 裕	佐久間 淳 飯寄 奈保 総合診療部 生坂 政臣	北田 光一	手術部 飯寄 奈保 総合診療部 生坂 政臣
----------------	-------------------------------	--	---------------------------------	----------------------	--------------------------	---------------------------	---------------------------	----------------------------------	------------------	---------------------------------	-------------------------	------------------------------------	-------------------------	-----------------------------------	----------------------------------	-------------------------	------------------------	-------------------------	--------------------------	----------------------------------	----------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	---------------------------------	---------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	-------------------------	------------------------	--------------------------	------------------------	-------------------------	------------------	--------------------------------	----------------------------------	-------	--------------------------------

### 公益財団法人への移行完了のお知らせ

#### 公益財団法人猪之鼻奨学会

財団法人猪之鼻奨学会は、国の新公益法人制度に伴い「公益財団法人」への移行手続きを進めておりましたが、平成24年3月22日に千葉県知事より認定書の交付を受け、平成24年4月1日付け、公益財団法人として下記のとおり移行登記が完了しましたので、お知らせいたします。  
今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

#### 記

1. 法人名称 公益財団法人猪之鼻奨学会
2. 移行登記年月日 平成24年4月1日
3. 代表者氏名 鈴木信夫
4. 主たる事務所 千葉市中央区亥鼻一丁目8番1号  
千葉大学医学部内

#### 5. 公益目的事業

当法人は、大正天皇御即位御大礼を永遠に記念するために創設し、医学及び薬学の研究を奨励することを目的とするとともに、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 医学及び薬学の研究業績の優秀な者に研究費を補助
- (2) 医学部及び薬学部の学生にして修学中途に事故等により学資の欠乏を告げた学生に学費を貸与
- (3) 前各号に掲げるもののほか、前条の目的を達成するために必要な事業

本件に関するお問い合わせ先  
公益財団法人猪之鼻奨学会  
電話 043-226-2509 FAX 043-226-2509

- 手術部 佐久間 淳
- 飯寄 奈保
- 総合診療部 生坂 政臣
- 薬剤部 北田 光一
- 大森 栄
- 先端和漢 笠原 裕司
- 43クラス会 さあろのはな同窓会
- 七葉会 (専25)
- 五窓会 (専23)
- 八千会代表大沢弘和 (専26)
- 葉々会
- 昭和61年卒同窓会
- 矢作会代表永野俊雄 (昭30)
- 西千葉医師の会

#### 2012 (平成24年) 版名簿の訂正

この度の名簿編集に当たりましては細心の注意を心掛けてまいりましたが、事務処理の手違いにより誤って掲載してしまいました。  
該当者の方には謹んでお詫び申し上げますと共にここに改めてご紹介いたします。

P 55	中村正己 → 中林正己	P 220	太和田暁之
P 57	吉山寛司 → 吉山寛司		専門科 消化器内科
P 132	石場俊太郎	P 246	島崎怜理 → 島崎怜理
	勤務先電話番号	P 247	塚越慶一 → 越塚慶一
	042-710-1322	P 329	田川雅俊 → 田川雅敏
		P 406	田川雅俊 → 田川雅敏

#### 新るのはな同窓会館設立事業会募金状況報告書

平成24年3月31日現在

寄付者	千葉大学基金		るのはな同窓会寄付金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
企業等	123	44,674,000	14	2,890,000	137	47,564,000
教職員 (元職員も含む)	179	21,512,000	119	3,940,861	298	25,452,861
同窓会会員	1,460	111,920,000	916	38,278,745	2,376	150,198,745
後援会会員	66	4,838,000	49	2,730,000	115	7,568,000
合計	1,828	182,944,000	1,098	47,839,606	2,926	230,783,606

お く や み

津田 柳下 三瓶 香取 海老原 糸井 石橋 前田 鷗澤 長田 山崎 高田 山上 小林 沖山 健次郎 正秀 正三郎 (昭24) (昭23) (昭23) (昭23) (昭23) (昭22) (昭22) (憲天) (憲天) (昭20) (昭20) (昭19) (昭18) (昭17) (昭17) (憲天) (昭16)

橋本 赤畑 河野 篠崎 福山 森 青木 神保 長島 内藤 莊 鈴木 山田 大藤 佐藤 十東 松田 三樹雄 (昭24) (昭24) (昭24) (昭24) (昭24) (昭24) (昭24) (昭25) (昭25) (昭25) (昭27) (昭28) (昭28) (昭29) (昭30) (昭30)

遠藤 川上 岡本 榎本 関山 長山 塩田 富塚 三井 本間 増田 漆原 佐野 安田 藤崎 赤間 晴雄 (昭31) (昭31) (昭33) (昭34) (昭34) (昭34) (昭35) (昭38) (昭39) (昭39) (昭40) (昭40) (昭60) (平元)

千葉医学雑誌88巻1号 2012年2月

原 著
脊髄障害性疼痛に対する顆粒球コロニー刺激因子 (G-CSF) の治療効果
加藤 啓 山崎正志 大河昭彦 佐久間 毅 高橋 宏 橋本光宏
林 浩一 川辺純子 藤由崇之 古矢丈雄 山内友規 門田 領
宮下智大 萬納寺誓人 染谷幸男 鎌田尊人 池田 修 橋本将行
井上雅俊 花岡英紀 国府田正雄 高橋和久
末期腎不全予防対策：メタボリックシンドローム腎症の提唱
—千葉県立高校生検尿システム20年間の解析を基礎にして— 土田弘基

千葉医学会賞
NKT細胞を標的としたがん免疫細胞治療の開発研究 本橋新一郎

千葉医学会奨励賞
インスリンシグナルと心老化 清水逸平 南野 徹 小林欣夫
全身性エリテマトーデスにおけるステロイド性大腿骨頭壊死の病態解明と
予後予測 中村順一
神経—血管ガイドランス分子を標的とした血管新生制御機構の解明と
新たな血管再生治療の開発 森谷純治
プロテオミクスの手法によるラミンAの機能解析
—早老症である Hutchinson-Gilford Progeria Syndrome における
動脈硬化性疾患の原因解明に向けて— 木下大輔

海外日より
UCSD 留学記 山内友規 山内かづ代

学 会
第1214回千葉医学会例会・第28回神経内科教室例会
第1219回千葉医学会例会・第28回千葉精神科集談会
第1222回千葉医学会例会・平成22年度細胞治療内科学例会

OAP 要旨
Delayed auditory feedback と近赤外線スペクトロコピーを用いた
脳活動計測のプレリミナリー研究 山下弘毅 笠置泰史 中澤 健 下山一郎

編集後記 瀧口正樹

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper
Original Paper
A preliminary study of delayed auditory feedback and brain activity of bilateral
prefrontal region detected by functional near infrared spectroscopy (fNIRS)
Koki Yamashita, Yasufumi Kasagi, Ken Nakazawa and Ichiro Shimoyama

千葉医学雑誌88巻2号 2012年4月

症 例
心不全症状を呈した巨大食道裂孔ヘルニアの1例
姫野雄司 大森敏生 柴田陽一 横溝十誠

海外日より
米国の救急卒後教育・シミュレーション 志賀 隆

学 会
第1235回千葉医学会例会・臓器制御外科学教室談話会

OAP 要旨
一般大衆への放射線関連：がんリスクの情報伝達について
ロバート・ピーター・ゲイル オーウェン・ホフマン
ダイナミック姿勢制御 —頭部/頭部胸部同期反復交互回転—
下山一郎 浅野由美 村田 淳 樋口佳則 内山智之
島田 齊 大内 洋 高橋和久 桑原 聡
後頭葉における代謝物質のMRスペクトロスコピーによる測定
—加齢と性別による影響— 伊藤 (清水) 里美 前野正登 築島謙二 山本修一

編集後記 亀井克彦

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper
Review Article
Communicating radiation-related cancer-risk to the public
Robert Peter Gale and F.Owen Hoffman

Original Paper
Dynamic postural control : Repetitive alternative rotation of the head and thorax
Ichiro Shimoyama, Yumi Asano, Atsushi Murata, Yoshinori Higuchi
Tomoyuki Uchiyama, Hitoshi Shimada, Hiroshi Oouchi
Kazuhiisa Takahashi and Satoru Kuwabara
Age and gender differences in metabolites of normal human occipital cortex
measured by proton magnetic resonance spectroscopy (1H-MRS)
Satomi Ito-Shimizu, Masato Maeno, Kenji Yanashima and Shuichi Yamamoto

第89回千葉医学会総会開催のご案内
第88回千葉医学会学術大会

編 集 後 記

千葉大学医学部創立135周年記念
事業の一つである「千葉医学の伝
統言語化(見える化)プロジェクト」とリンクし、平成22年度に「千
葉医学のアイデンティティー・ワ
ーキンググループ」が医学研究院
教授会に設置され、「千葉医学」の
アイデンティティーが纏められま
した。ここでいうアイデンティテ
ーとは、千葉大学医学部に関わ
る私達が共有する「自分なにも
のなのか?」を表す要素です。言
語化されたアイデンティティーと
しては「獅胆鷹目行以女手」、
「begin.continue」「人間の尊厳」
が認知され、視覚化されたアイデ

ンティティーとしては「千葉医学」
のロゴ(左図)が作成されました。
「千葉医学」のホームページもリニ
ューアルし、千葉大学大学院医学
研究院・医学部のホームページに
掲げられた本ロゴをクリックする
ことにより閲覧することができます。
お時間のある時に是非訪れて
頂ければと思います。
白澤 浩 (昭57)



編集委員 写真右から
前列：高橋和久(昭51)、横須賀收(昭50)、清水栄司(平2)、
渡辺武前会長(昭27)、伊藤晴夫会長(昭39)、青木 謹(昭36)、
鈴木信夫(昭47)、坂本薫(昭51)
後列：吉野一郎(九大・昭62)、松原久裕(昭59)、織田成人(昭53)、
吉田英生(昭53)、栃木直文(平12)、白澤 浩(昭57)、
幡野雅彦(昭57)、瀧口正樹(昭56)